

ヲ要センヤ然レモ該條已ニ云々ノ修正アレハ第七條モ亦本官ノ説
ノ如クナラサル可ラス是前後照應セハ一目瞭然タルモノナリ二十
八番ハ頻ニ云々スト雖モ苟モ自己ノ儲蓄金ヲ保全スルノ心アラハ
豈獨リ政府ノ配付金ノミヲ濫消スルノ理アラシヤ

○四番 津田眞道

本按ヲ可トス二十八番ノ陳述スル如ク非常ニ當テ内務
大藏兩卿ニ具狀スルハ當然ト爲ス豈自己ノ囊裏ニアルモノヲ置テ
漫ニ政府ノ救助ヲ望ムモノアラシヤ

○番 矢野文雄

從來救助ノ金額ハ一年平均三四十萬圓ニ止マレリ今
ヤ之ニ加ヘテ九十萬圓ヲ配付シ其三十萬圓ヲ中央政府ニ儲蓄シテ
以テ事ニ應セントス然ルニ中央儲蓄金ヲ供用スルニ至テハ已ニ限
リアルノ金額ナリ其具狀ノ先後ニヨリテ或ハ幸不幸ヲ生スルカ如

シト雖モ大藏省ハ亦各地方徵收ノ金アルヲ以テ之ヲ處分スルハ肯
テ難事ニアラサルナリ

○一番 玉乃世履

元來凶荒ニ備フルモノナレハ何ソ三十萬金ヲ以テ別物
ト爲スヲ要センヤ之ヲ約言スレハ甲府縣ヨリ乙府縣ニ流用スルモ
妨ナカラシ畢竟三分二ナキニ流用ヲ求ムルモ一石不足ニ流用ヲ求
ムルモ可ナリト雖モ亦然ラサルコアリ即チ中央政府求メニ應スル
能ハサルニヨル是レナリ又府知事縣令モ務メテ其中央金ノ供用ヲ
仰カサルヤ知ル可シ何トナレハ其中央金ヲ供用セサルヲ以テ利益
多シト爲スカ故ナリ是ヲ以テ本官ハ益々二十四番ノ説ニ左袒ス

○二十八番 安場保和

人聖賢ニアラサレハ誰カ利ヲ爭フノ情ナカラシ苟
モ此法ヲ設ケントセハ亦其制ナカル可ラス既ニ又第六條ニモ其制

限アルニアラスヤ維新以來各地情況ヲ異ニシ貧ハ益々貧ニ赴クノ勢ヒナリ故ニ凡ソ今日ヨリ二十年間モ本法ヲ實施シ而シテ後格別ノ事項ナクンハ其期ニ至リ之ヲ分配スルモ未タ晚シトセス

○議長 第七條二十四番ノ修正ニ同意ハ起立セヨ

起立者四人

○議長 少數ヲ以テ二十四番ノ修正ハ消滅ス

○議長 第三條乃至第十一條本按ニ同意ハ起立セヨ

起立者九人

○議長 多數ヲ以テ本按ニ決シ即チ第二讀會ヲ閉ツ

○外一番 矢野 文雄 各府縣共ニ豫算ノ都合ニヨリ殊ニ急施ヲ要スルヲ以

テ直ニ第三讀會ヲ開カンコヲ乞フ

○十七番 秋月 種樹 本官亦特別建議ヲ爲サントス本日ハ出席議官特ニ少

數ナルヲ以テ宜ク來日ヲ待テ本按ノ第三讀會ヲ開カンコヲ望ム

○二十四番 山口 尙芳 十七番ノ建議ハ理ナキニ非スト雖モ下付ノ議按此

他尙數多アリテ而モ皆急施ヲ要スルモノタリ故ニ陸續會議ヲ爲ス

モ恐クハ來月中ニハ議決シ能ハサルヘシ因テ例外ト雖モ內閣委員

ノ請求ニ應スルヲ可トス

○十四番 黒田 清綱 委員ノ請求ヲ可トス

○六番 中村 弘毅 十七番ヲ賛成ス

○議長 規則ニ遵ヒ決ヲ取ン委員ノ請求ニ應セントスルモノハ起立

セヨ

起立者四人

○議長 少數ヲ以テ委員ノ請求ハ消滅ス更ニ來日ヲ待テ第三讀會ヲ開ク可シ散會セヨ

○午後第三時五十四分開場

○十四番 議員ノ請求ヲ以テ

○議長 議員ノ請求ハ消滅ス更ニ來日ヲ待テ第三讀會ヲ開ク可シ散會セヨ

○議長 議員ノ請求ハ消滅ス更ニ來日ヲ待テ第三讀會ヲ開ク可シ散會セヨ

○議長 議員ノ請求ハ消滅ス更ニ來日ヲ待テ第三讀會ヲ開ク可シ散會セヨ

元老院會議筆記明治十三年四月十七日

○第七十五號議按 地方官會議ニ於テ議定セシ第三號ヨリ第廿四號ニ至ル議案及ヒ備荒儲蓄法布告按

三讀會 第八十七號議按 檢視ノ後開場

議長 細川潤次郎 代理

出席議員

三番 大久保一翁

四番 津田 眞道

六番 中村 弘毅

九番 神田 孝平

十番 水本 成美

十一番 伊集院兼寛

十二番	岩下 方平
十三番	楠田 英世
十五番	大給 恒
十七番	秋月 種樹
十八番	東久世通禧
十九番	津田 一出
廿一番	河瀬 眞孝
廿二番	福羽 美靜
廿四番	山口 尙芳
廿七番	楠本 正隆
廿八番	安場 保和

三十一番 箕作 麟祥
三十三番 本田 親雄

内閣委員番外一番 太政官少書記官 矢野 文雄

○議長 議長他公用アリ本官代理ヲ爲シ即チ第七十五號議按中備
荒儲蓄法第三讀會ヲ開ク各位例ニ遵ヒ發議ス可シ

書記官森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

布告按

備荒儲蓄法別紙ノ通相定來ル十三年度明治十四年一月一日ヨリ施行候條明

治八年七月第百貳拾貳號達窮民一時救助規則及同十年九月第六拾貳號

布告凶歲租稅延納規則ハ右施行ノ期日ヨリ廢止トス此旨布告候事

但東京市街ノ如キ郡村ト其趣ヲ殊ニスルモノハ府縣會ノ決議ヲ

經テ政府ノ許可ヲ得別段ノ方法ヲ設クルモ不苦候事

○十五番 大給恒

本按ヲ廢棄セント欲ス何トナレハ其主旨タル行潦ノ水ニシテ源ナキモノナリ畢竟儲蓄ハ非常凶荒ヲ慮リテ自カラ爲ス可キモノナルニ政府之ヲ強ユルハ其理由ヲ知ラス況ヤ若シ一旦不慮中ノ不慮起ルアラハ或ハ其目的ヲ達スル能ハスシテ遂ニ仁慈却テ不仁慈タルノ感觸ヲ起サシムルニ至ルアルニ於テヲヤ本按ハ即チ自カラ爲スニアラスシテ政府之ヲ令スルカリ之ヲ令スルハ猶恕スヘキモ必ラス爲サル可ラサルノ法律ヲ以テス是レ豈賦稅ト異ナランヤ現ニ雜種稅ヲ課スルハ無理ニ非スト雖モ維新以前ノコヲ記臆スルモノハ且驚キ且難ンス況ヤ備荒儲蓄ハ其名ハ租稅ト云ハサルモ一種類似ノモノナルニ於テヲヤ以是觀之ハ唯雜種稅ト其性

質ヲ異ニスルノ稅ナルヲ以テ人民ノ感觸ハ多ヲ加フルノ理ナリ且ヤ凶荒ノ災ハ一般ノモノナルニ之ニ備フルハ只其地主ニ限ルト爲スハ取モ直サス地主ニ賦課セシ稅ヲ以テ貧民ヲ救助スルモノナリ豈不公平ト謂ハサル可ケンヤ此ノ如キノ感觸ハ人々ノ最モ生シ易キモノナルヲ以テ前會已ニ或議官ハ獨リ地主ニ限ラス各人平等ニ課スヘシトノ論辯アリ方今政府ハ頻リニ人々ヲ勸勵シテ自活ノ心ヲ生セシメントスルニ際シ若シ一回本按ヲ布カハ漸次人々ノ奮發力ヲ沮喪センコト疑ヒヲ容レス元來所有權ノ最モ貴重スヘキハ其農工ヲ問ハス皆是自己ノ勉勵ノ資タルヲ以テナリ然ルニ其所有物ヲ以テ故ナク他人ニ支與スヘシト云ハ何ノ道理タルヲ解スヘカラス夫ノ租稅ヲ出シ又之ヲ納ル、ハ自ラ國家ノ須用ニ供スルモノニシ

テ決シテ故ナク之ヲ出シ之ヲ取ルニアラス然ルニ今政府ヨリ百二十萬圓ヲ出シテ將來ノ救助ニ備ヘントスルハ稍々美ナルカ如シト雖モ其金額タル蓋シ歲出剩餘ノモノト謂ハサルヲ得ス論シテ此ニ到レハ政府ハ無用ノ租稅ヲ徵收シテ此剩餘ヲ致セシモノト云モ或ハ誣ルニアラサルヘシ且ヤ本按ヲ施行スルニ方リ其年限中頻年豊熟ナラハ寔ニ可ナリト雖モ天災ノ度ハ素ヨリ之ヲ圖ル可ラス其時ニ臨ミ金額若シ不足スルコト有ラハ將々之ヲ奈何スヘキ事此ニ至リ昨日ノ恩惠ハ今日ニ變シテ寡恩ノ感ヲ起サシムルナル可シ但自己ノ爲セルモノハタトヒ事ニ失敗アルモ所謂天ヲ怨ミス人ヲ尤メスト雖モ強テ之ヲ爲サシムルモハ遂ニ怨嗟ノ聲ヲ發セシムルニ至ル是古今ノ通弊ナリ本官ハ本按ニ對シ反復熟考スルニ終ニ此理由

ノ奪フヘカラサルヲ以テ更ニ廢按說ヲ提出スルナリ

○十七番秋月種樹

十五番ヲ賛成ス抑本法ヲ施行セハ人民ニ懶惰心ヲ生セシメ終ニ自主獨立ノ氣性ヲ亡滅セシムルニ至ルヤ十五番ノ說ノ如シ本官又英國ノ史乘ニ就テ其不可ナルヲ徵ス夫レ該國千八百三十四年ニ於テ此ノ如キ法盛ンニ行ハレ當時專ラ道德ヲ以テ稱贊セシモ其弊ヤ終ニ國民ノ遊惰心ヲ誘起シ困難貧窶國且保チ難キヲ致スノ因ト爲レリ於茲乎物議囂々斷然之ヲ廢止セシヲ以テ漸次回復ノ地位ヲ得タリト雖モ今ニ至テ其惡法タルヲ喋々シ一人ノ之ヲ稱譽スルモノナシト然ルニ彼カ經歷上已ニ大惡法ナリト擯斥スル所ノモノヲ取テ我人民ノ惰心ヲ誘起セシメントスルハ實ニ思ハサルノ甚シキナリ本日發兌ノ東京經濟雜誌ヲ閱スルニ畎々本按ノ不可

ナルヲ論舉スルモノ一ニシテ止マラサルノミナラス遂ニ斷シテ大
 藏庫内ヲ富スノ策ニシテ即チ百二十萬圓ヲ餌トシ人民ノ百二十萬
 圓ヲ釣ラントスルノ意ニ外ナラスト云ニ至ル蓋シ一雜誌ノ説ク所
 固ヨリ信ヲ措クニ足ラスト雖モ其舉テ以テ不是ト爲スハ本官ト其
 旨ヲ一ニス若シ夫此ノ如キ法令ヲ發スルハ社會ニ奈何ナル感觸
 ラ起スヤ知ル可ラス本官嘗ニ其徒法ナルヲ歎スルノミナラス已ニ
 英國ノ例ヲ引シカ如ク其弊ノ生スルニ及ンテヤ遽カニ之ヲ廢スル
 ニ至ルハ鏡ニ掛テ視ルカ如シ獨リ其ノミナラス夫ノ國會ヲ開クノ
 時ニ至ラハ忽チ廢棄ニ屬スルハ言ヲ竣タス冀クハ内閣委員モ其職
 務ニ間ハスシテ之ヲ良心ニ問ヒ今ヲ謀ラスシテ後ヲ圖ランコトヲ故
 ニ縱ヒ此説行ハレサルモ之ヲ本院ノ存議錄ニ留メ以テ本官等ノ本

懷ヲ伸ントスルナリ

○九番 神田 孝平 賛成ス備シ本法ヲ施行スルハ乃チ明治ノ昭代ヲ汚ス

ニ至ラン其詳論ハ問題ト爲ルノ後ニ讓ラントス

○十番 水木 成美 賛成

○二十二番 福羽 美静 賛成

○十三番 補田 英世 賛成ス元來農ヲ以テ建ツルノ國ハ農ヲ扶ケ工ヲ以テ

建ツルノ國ハ工ヲ扶ケサルヘカラス即チ英國ハ工業ヲ以テ立ノ國
 ナレハ炭坑以テ基礎トナセリ本邦乃チ農ヲ以テ建ツ而ルニ維新以
 來未ダ曾テ之ヲ扶クルコトアラサルハ實ニ遺憾トナスナリ蓋シ支那
 ニモ漢隋ニハ常平倉社會義倉等アリテ其方法ハ載テ史冊ニアリ例
 ヘハ其始メ六百石ヲ以テ資本トシ漸次利足米ヲ納メ終ニ其資米ヲ

太守ニ納完スル等注意甚タ密ナリ本按ノ精神ハ第六條ニアリ今政
府百二十萬圓ヲ出スハ稍々美舉ノ如シト雖モ其方法ハ頗ル不是ナ
リ蓋シ道理ヲ以テ云ヘハ極貧ハ救ハサルヲ可トス何トナレハ之ヲ
救フニ一回ハ惠ト爲シ二回ハ常ト爲シ三回ハ不足ト爲スハ古今小
人ノ常情ナリトハ眞ニ古賢ノ格言ト云ヘシ之ヲ要スルニ救貧ノ歸
スル所ハ富者ニ在リ西洋ニ於テモ一期ハ農業盛ナルモ二期ハ平
均シテ牧畜ヲ旺シナリトス本按ノ如キハ國家ノ利害得失ニ關スル
ト尠少ナラス本官曾テ明法寮ニ在シ日佛人ジブスケ氏ニ問シトア
リ彼レ對テ云ク巴里ニテ麵包及ヒ牛肉ノ價格ヲ平均スルコト皆官金
ヲ貸與シテ之ヲ爲セリト善哉佛國ノ意ヲ此ニ注クコトヤ今ヤ我邦肯
テ姑息ヲ須ヒス斷然確策ヲ以テ目下在ル所ノ常平局ヲ保持スルノ

地ヲ成ス可シ蓋シ五十萬圓ヲ以テ爲スモ可ナリ豈金ノ多少ヲ論セ
ンヤ本按ノ如キハ其裏面如何ナル意味ヲ含蓄スルヤ人民ニ於テハ
之ヲ知ルニ由ナシ然レモ適マ數年ノ間凶荒ナクシテハ其儲蓄ノ額ハ
許大ナルヘシト雖モ其運轉ノ如何ニ至テハ一モ之ヲ記セス政府果
シテ斯民ヲ保護スルニ意アラハ豈精密ナル方法ヲ明示セサル可ケ
ンヤ又況マ之ヲ舍ルモ猶他ニ爲ス可キノ方法ナキニ非サルニ於テ
ヲヤ改正ノ地租ハ詔ヲ以テ百分ノ二分五厘トナレリ今此ノ如キ收
金ヲ爲スハ寧ロ聖詔ヲ如何ヒントスルヤ

○議長 十五番ノ動議ハ成規ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外一番矢野 或議官ハ備荒儲蓄ハ不可ナリ其方法モ亦不可ナリト
シテ英國ノ例ヲ引証スルモ論者ハ彼英國ノ貧民ハ何ヨリ生シ本按

ノ所謂貧民ハ何ヨリ生スルヤヲ探究セサルモノト認ム蓋シ彼ハ懶惰ヨリ生シ此ハ天災ヨリ生ス豈彼ヲ以テ此ヲ律ス可ケンヤ今論者ニ對シ本按ハ何ノ爲ニ惡シキヤト問ヘハ必ス自治心ヲ害スルナリト云ノ外ナカラシ夫レ自治心ヲ救フハ他ニ名法アリ即チ參政權ヲ與フル是ナリ蓋シ社會ニハ一人ニテ爲スコアリ衆人ニテ爲スコアリ衆人ニテ爲スコハ政府ノ責トス本按第一讀會ニ方リ其政府ノ務メナリヤ否ヤノ議ハ既ニ反復陳述スト雖モ猶更ニ一言セントス抑人爲ノ害ハ海陸ノ軍兵ヲ以テ敵ヲ拒ムモ警察署ヲ置テ盜ヲ防クモ皆是政府ノ職務ナリ其天災ヲ防クモ亦政府ノ職務タルモノアリ若シ之ヲ職外ト爲サハ道路橋梁燈臺皆然ヲサルハナシ殊ニ流行病ノ如キハ即チ天災ナラスヤ政府已ニ之ヲ救フ凶荒豈之ヲ救ハサルノ

理アラシヤ政府ハ其職務ヲ行フ爲メニ租ヲ徵セハ凶荒ヲ救フカ爲メニ金ヲ課スルモ亦何ノ不可カ之レ有ラン畢竟此賦金タル之ヲ大藏ニ積蓄スルモ又人民ニ公儲セシムルモ固ヨリ其區別アルコトナシ其徵收ノ方法ニ至テハ土地ヲ有スル人民ヨリノ文字ヲ以テ眼目トナセリ例ヘハ茲ニ甲乙丙ノ三家アリ甲ハ地ヲ有シ乙ハ地ヲ有セサルノ佃戸ナリ丙モ亦地ヲ有セサルノ商估トス然ルニ水災ニヨリ家ヲ流失センカ甲ハ小屋掛料、農具料、種穀料ノ給助ヲ得而シテ丙ハ單ニ小屋掛料ノ給助ヲ得ルナリ以是觀之ハ地ヲ有スル者ハ其義務重キカ故ニ救ハル、所モ亦多シ豈一般輕重ナシト云ヘケンヤ要之ニ其金ハ一般人民ヨリ課スルモノニシテ即チ之ヲ一般人民ニ割リ戻シタルモノナリ但

繁難ノ計算ヲ爲サ、ルノミ

○二十四番

山口
佐芳

内閣委員ノ辯明ヲ以テ本按ノ旨意ヲ詳盡スト雖モ本官ハ單ニ杞憂ノ一點ヲ述ヘントス今各位ノ論スル所ヲ聽クニ皆悉ク其目的ヲ差ヘリ或議官ハ英國ノ三十年前ノ形狀ヲ引証スルモ當時ハ該國第一繁昌ノ秋ニシテ目下我邦ハ現ニ困難ニ向ハントスルノ時ナリ首ヲ維新以後ノ景況ニ回ラスニ未タ以テ英國ノ如キ艱厄ニ陷ラサルモノハ獨リ彼ノ耕作ニ害ナキヲ以テナリ維新ノ前ハ諸侯各個其備アリ更ニ當時ヲ回顧スレハ遠ク例ヲ英國ニ引クヲ要セス乃チ我天明天保度ノ如キ凶荒ノ目下ニ現出スルコアラハ政府ノ之ヲ救護スルニ果シテ如何セントナス又或議官ハ其方法ナシト論スレモ第五條ヲ見レハ一目粲然ナリ蓋シ本按ノ如キハ人民ノ克

ク之ヲ負擔シ能ハサルヤ否ヲ問フニ是決シテ能ハサルモノニ非ス各人平日僅々ノ公儲ヲ爲シ以テ非常ノ大災ヲ救フヲ得ルハ豈又善ラスヤ英國ノ災害ノ如キモ預メ之カ備ヲ爲サハ那ノ困難ニハ至ラサリシナラン蓋シ其困難ハ千七百九十二年ヨリ千八百二十二年即チ二十年間ニ於テ四十五億萬磅ノ國債ヲ起セリ仍テ一人ト雖モ遊惰ノ民ヲ置カサルノ政略ニ歸セルナリ史ヲ讀ムモノハ須ラク彼此時勢ヲ洞察シテ以テ考証トナスヘシ之ヲ要スルニ天災ノ備ヲ爲サル可ラサルハ古今ノ常理天下ノ通論ナリ決テ本按ヲ廢スヘカラ

ス

○九番

神田
孝平

本官ハ敢テ備荒儲蓄ヲ非トスルニアラス然レモ唯本按ニハ不條理ナルコトヲ含蓄スルヲ以テ之ヲ嫌フナリ其嫌フ所以ノモ

ノハ單ニ地主ニ課スルヲ以テナリ元來我政體ノ根源ヲ按スルニ道
 德ヲ以テ法律ニ優レリトス故ニ今法律ヲ以テセハ道德ヲ除カサル
 可ラス而シテ其法律ナルモノハ乃チ政府ノ意向ニ由テ以テ立チ若
 シ之ニ背ケハ罰ヲ與ヘ罪ヲ科ス其資力及ハサルモノハ直ニ身代限
 ニ處スルヲ以テ例トセリ既ニ此ノ如キ嚴法アリ亦以テ之ニ副フル
 ノ寛法ナカル可ラス即チ貧民一時救助地租延納法等是レナリ是蓋
 シ嚴法ニ對スルノ義務ノ如シ備荒儲蓄ノ如キモ固ヨリ政府ノ負擔
 ス可キ所トス故ニ其土地ヲ有セハ必ス貧民ヲ救ハサルヘカラスト
 云ノ義務ハ毫モアルコトナシ然ルニ今其義務アル政府ト義務ナキ地
 主トヲ混一ニシテ此事ヲ爲サントス豈條理當ニ然ルヘシト云ンヤ
 根源ノ正シカラサルコト既ニ此ノ如シ其末流ニ至ラハ人民ノ不服心

ヲ生スルヤ問ハスシテ知ル可キナリ之ヲ約スレハ政府ハ強テ其義
 務ヲ地主ニ負ハシメ即チ富ヲ分テ貧ニ與ヘ所謂貧富平均セントス
 ルノ主義ニ外ナラサルナリ又天災ヲ救フモ自カラ其區別アリ普通
 ノ災ハ懶惰者先ツ之ヲ受ク今本按ノ如クセハ乃チ勉強者ハ懶惰者
 ヲ助クルノ法律ト謂ハサルヲ得ス人或ハ云ン果シテ然ラハ富人ハ
 一切貧人ヲ救フノ道ナキ乎ト曰ク有リ只法律以テ之ヲ令スル能ハ
 サルノミ蓋シ富者ノ貧人ヲ救フハ人生自然ノ道德ナリ目下已ニ此
 道德ノ行ハル、ヲ見ル何ソ其レ之ヲ強ルヲ用ヒンヤ人又云ン然ハ
 則チ宜ク第二條ヲ削ル可シト是決シテ否ラサルナリ何トナレハ本
 按ハ官民義務ノ別アルニ拘ハラズ強テ其義務ヲ併一ニナサシメン
 トノ主旨ナルヲ以テタトセ第二條ヲ削ルモ情理相適フノ法律ト爲

スヘカラス寧口斷然廢按ニ付シ而シテ更ニ有益無害ノ法案ヲ設クル乎或ハ舊慣ニ依ルカノ二者ニアルノミ

○二十七番 楠本正隆

本官ハ人民ヲ救助スルハ政府ノ義務ニシテ今此法按ヲ立ルハ時勢ノ止ヲ得サル所ナリト確信セリ抑廢按論者ノ言ヲ聽クニ或ハ一理ナキニ非サルモ到底其說高尚ニ失シ却テ其事理ヲ盡サスタトヒ論者ハ其說ヲ巧ニスルモ政府ハ宜ク人民ヲ救フヘシ人民ハ互ニ之ヲ救ハサルモ可ナリト云フカ如キ理由ハ萬々アルナシ輓近國人ノ形勢モ亦然リ議論ハ日ヲ逐テ高尚ニ進ムト雖モ却テ往々其實ヲ失フモノ多シ慨嘆ス可キモノナラスヤ蓋シ本按ハ政府ノ義務ヲ以テ救恤ヲナスヲ旨趣トシ人民モ亦共ニ公儲セシメ而シテ其支消スルハ彼府縣會ニ任シ敢テ過當ノ金額ヲ儲蓄セントス

ルニアラス然ルニ論者ハ斥テ以テ陰ニ租稅ヲ増スモノトスルモ固ヨリ道理ヲ明ニセシ說ニアラス今之ヲ土地所有者ノミニ徵收スルモ其地額ニ分付セハ最モ僅々タルモノナリ畢竟反對論者ノ言タル其一讀會以來ノ餘波ニシテ敢テ傾動スヘキ新說アルニアラス此ノ如キ浮薄ノ說ヲ以テ本按ヲ廢スルニ至ルハ豈慨息セサルヘケンヤ冀クハ各位目ヲ時勢ニ注キ無功ノ高尚論ヲ止メ能ク本按意旨ノ在ル所ヲ翫味セラレシコトヲ

○四番 津田真道

特別建議ヲ爲サントス時已ニ午ヲ過ク故ニ一時休憩本會ヲ午餐後ニ讓ル乎又ハ之ヲ他日ニ延ス乎ニ決セラレシコトヲ請フ

○一番 玉乃世履 賛成

○議長 議事ノ伸縮ハ本席ノ思料ニ在リ

○廿二番 福羽美静

本官病ヲ扶ケテ登場セシハ即チ本按ヲ廢セントスルノ熱心ニ由レリ抑備荒儲蓄法ヲ設クルハ一家一村一郡一國共ニ競フテ之ヲ爲サシムルヲ可トス唯政府法律ヲ以テ驅ルハ不可ナリ何トナレハ政府果シテ人民ヲ救フニ意アラハ其時流ノ嗜好ヲ止メハ獨リ百二十萬圓ノミナラス幾百萬圓ト雖モ之ヲ儲蓄シ以テ凶荒ニ備フルヲ得ヘシ若シ其嗜好ヲ止ムルコト能ハスト云ハ、タトヒ一萬圓ト雖モ之ヲ儲蓄シ得可ラス苟モ政府此善良ノ意ヲ表セント欲セハ寧ロ一庫ヲ建テ年々幾百萬圓ヲ公儲シ以テ凶荒ニ充ツヘキ旨ヲ明示セハ人民モ亦保護ノ厚意ニ感シ自然儲蓄心ヲ奮起スルナルヘシ然ルニ其意此ニ出ス嚴然法律ヲ以テ必ス此ノ如ク賦金ヲ出スヘシト令スルハ所謂壓制法ト謂ンカ倘シ本按ヲ布カハ土地所有者ハ

○此法網ヲ道ル、能ハス豈之ヲ甘受スヘケンヤ而シテ之ヲ府縣會ニ委スルト云ハ大ニ公平ニ似タリト雖モ此ノ如クセハ人民ヲシテ自ラ府縣會ヲ倦惡スルノ感觸ヲ生セシムルニ至ラン且災民救助ノ如キ固ヨリ今年ニ限ルニアラス然ルニ遽然此法ヲ立ルキハ政府ハ人民ニ對シ我今日始メテ救助ノ爲サ、ルヘカラサルヲ發見セリ故ニ汝等モ亦之ニ倣ヘト云カ如ク到底壓制法ニ類スルヲ以テ本官ハ深ク政府ノ爲メニ取ラサル所ナリ請フ政府別ニ其方法ヲ設ケテ自己ノ善良心ヲ明示シ所謂令セスシテ人民之ニ倣フニ至ルノ備荒儲蓄ニ至ランコトヲ

○廿八番 安場保和 本按ヲ廢セハ目下ハ暫ク措テ論セサルモ將來大ニ關係ヲ生ス可シ抑封建政治ヲ指シテ一般惡逆ナリト論スト雖モ亦人

民ノ爲ニスルハ見ル可キモノアリ我舊藩熊本ノ如キ受面ナルモノ
アリテ三十年ヲ計リ之ヲ人民ニ負擔セシメ平年ニ一分半ト唱フル
モノアリテ之ヲ足シ米ト稱シ以テ凶年租税ノ不足ニ充テ又凶年ニ
ハ檢見ヲ願出ル等其儲蓄ノ方法今日ニ優ルモノアリシ惜哉本官等
藩政ニ參與スルノ間時流ニ奔競シテ遂ニ此法ヲ廢セリ爾後大ニ悟
ル所アリ今尙之ヲ以テ遺憾トナス論者ハ本按ヲ指テ名ハ儲蓄法ナ
ルモ其實重税ヲ課スルナリト云ト雖モ豈其レ然ラシヤ蓋シ是輕々
皮表ヲ看過シ去シモノニシテ深ク政府ノ將來ニ慮ル所アルヲ察セ
サルノ言ノミ本按決テ廢スヘカラス

○十番 水本 成美 本官ハ已ニ十五番ノ廢按説ニ左袒ス

○廿四番 山口 尙芳 特別建議ヲ爲サント欲ス

○議長 十番起立説明中ナリ説明了リテ後其所思ヲ伸フヘシ

○廿四番 山口 尙芳 十番起立中ト雖ニ特別ノ建議ヲ准サレンコトヲ欲ス本

場ハ午前第十時二十六分ヲ以テ開キ今既ニ午後一時ヲ經過スルモ
猶午餐ノ爲退席スルヲ得ス請フ例ニ遵ヒ喫飯ノ時間ヲ與ヘ以テ議
場ヲ整頓セラレンコトヲ

○廿七番 楠本 正隆 賛成

○議長 廿四番ノ建議ニ同意者ハ起立セヨ
起立者七人

○議長 少數ナルヲ以テ廿四番ノ建議ハ消滅ス十番ハ前論ヲ繼テ可
ナリ

○十番 水本 成美 更ニ十五番ヲ賛成スルノ主意ヲ述ン夫レ備荒儲蓄ノ事

ハ内閣委員ノ言ノ如ク固ヨリ政府ノ擔當ス可キ義務ニシテ即チ國稅中ノ一部分ニ關スルモノナリ然レモ救助ト云ヘハ已ニ道德上ノコナリ今法律ヲ以テ之ヲ人民ニ賦セントスルハ太タ道理ニ反ス蓋シ租稅ヲ納ムル能ハサルモノハ政府前ニ延納規則ヲ設ク即之ヲ以テ足レリトス然ルニ之ヲ足レリトセス今此按ヲ起スハ畢竟政府ハ今年ニ徵ス可キモノハ必ス今年ニ徵セント欲スルヲ以テナリ豈數年ヲ延ハス可ラサルノ理アラシヤ抑政府出ス所ノ百二十萬金ハ已ニ國稅ノ部分ヨリ割キタルモノナリト雖モ何ソ特ニ之ヲ割テ以テ別途ニスルヲ要セン且天災八年々荐リニ至ルモノニアラス若シ夫レ至ルアラハ二百萬圓乃至三百萬圓ト雖モ之ヲ出シテ可ナリ之ヲ要スルニ國稅ノ外更ニ收出ヲ促カスハ是法律ヲ以テ道德ヲ驅ルモ

コナリ不可ニアラスシテ何ソヤ

○四番 津田 眞道

本官モ亦胸宇ニ持論ヲ納ム故ニ喫飯後ヲ待テ大ニ吐露スル所アラント欲セシニ各位食ヲ忘レテ勉強アルヲ以テ本官モ亦所思ヲ陳セントス而シテ我邦將來餓孝道ニ載ツルモ其救助ノ法ヲ得ルト否ハ實ニ本按存廢決議如何ノ瞬間ニアリ素ヨリ飢ヲ忍ビテ奮勵論辯セサルヘカラス本官惟ヘラク輓近下付セラル、法案ヲ見ルニ概子皆適度ニ一步ヲ進メリ且昨日議定セシ刑法ノ如キモ其文章体裁共ニ見ルヘシト雖モ實際ニ由テ論スルトキハ或ハ高尚ニ過キ尙早シト云モ不可ナキナリ獨リ本按ニ限り大ニ時勢ニ適當セリト抑慈惠ノ事ハ政府ノ問フ所ニアラスト云ト雖モ海陸軍ノ内ヲ守リ外ヲ防キ或ハ其他政府ニ施行スル所百般ノ事業大抵慈惠ニ出ル

ト云フモ敢テ不可ナカルヘシ蓋シ慈惠ハ政府ノ眼目ナリ且近來適
マ凶荒ナキヲ以テ飢餓ノ憂ナキモ凶年饑歲ハ素ヨリ豫メ圖ル可キ
ニアラス且人力以テ之ヲ奈何トモス可ラス例ヘハ今歐米各國ト戰
フテ勝ヲ全フスヘカラサルモ其戰ヒナキヲ保ツ可ラサルト一般天
災モ亦然リ豈之レ無キヲ保ツ可シヤ目下米價ノ騰貴ハ發位ノ知ル
所ニシテ蓋シ過刻檢視セシ米商會所條例改正加除ノ布告ヲ要スル
秋ナリ故ニ若シ今ニシテ凶年ニ遭ヘハ忽チ外債ヲ起シ外國米ヲ
仰カサル可カラス一昨年ハ支那ノ饑饉アリ邦人モ亦之ヲ救助セリ
是レ道德上ヨリ爲シタルト雖厄苟モ人民互ニ相助ケ相救フハ即
チ其情ノ禽獸ニ異ナル所以ナリ故ニ其備荒ノ方法ヲキハ政府ト名
ク可ラス或議官ハ數年ヲ積メハ儲蓄金巨額ニ至リ其支消ニ困シム

ナラント論スルモ本官ハ決シテ之ニ困シマサルナリ即之ヲ運用シ
テ以テ陸海軍ヲ全備シ彼ノ歐米各國ト對立ノ力ヲ養ハント欲ス豈
快事ナラスヤ

○議長 十五番ノ廢按說ニ同意者ハ起立セヨ
起立者十一人

○議長 多數ヲ以テ十五番ノ說ニ決シ即チ修正按ヲ廢棄ス更ニ内閣
下附ノ原按廢棄ニ同意ハ起立セヨ
起立者十一人

○議長 多數ナルニ因リ原按廢棄ニ決スルヲ以テ其趣旨ヲ具シ例ニ
由リ上奏ス可シ散會セヨ

午後第一時十三分開場

○議員 各社代表員等因て...

○議員 各社代表員等因て...

○議員 各社代表員等因て...

○議員 各社代表員等因て...

○議員 各社代表員等因て...

○議員 各社代表員等因て...

元老院會議筆記明治十三年三月十六日

○第一百七十六號議按 舊琉球藩負債償還並檢視會

議長 大木 喬任

出席議員

一番 玉乃 世履

二番 齋藤 利行

三番 大久保一翁

八番 細川潤次郎

九番 神田 孝平

十番 水本 成美

十二番 岩下 方平

弘化元甲辰年以降舊琉球藩へ借入金ハ公債ニ相立消却殘元利全額現金ヲ以テテ時償還ニ及フヘキ事

第二項

天保十四癸卯年以前ノ古借ハ公債ニ不相立候事

貸付取立方

第一項

舊琉球藩ヨリ貸付有之金穀并各種ノ不納物ハ舊同藩約定ノ通可取

○立事

○第二項

天保十四癸卯年以前ノ貸付金穀并各種ノ不納物ハ取立ニ不及候事

○議長 本按不備不明ニ非スト思考スルモノハ起立スヘシ

全員悉起立

○議長 全會一致異議ナク本按檢視ヲ經過セシ旨ヲ以テ例ニ遵ヒ上奏スヘシ散會セヨ

午前第十時三十五分閉場

此...
 第一...
 第二...
 第三...
 第四...
 第五...
 第六...
 第七...
 第八...
 第九...
 第十...
 第十一...
 第十二...
 第十三...
 第十四...
 第十五...
 第十六...
 第十七...
 第十八...
 第十九...
 第二十...
 第二十一...
 第二十二...
 第二十三...
 第二十四...
 第二十五...
 第二十六...
 第二十七...
 第二十八...
 第二十九...
 第三十...
 第三十一...
 第三十二...
 第三十三...
 第三十四...
 第三十五...
 第三十六...
 第三十七...
 第三十八...
 第三十九...
 第四十...
 第四十一...
 第四十二...
 第四十三...
 第四十四...
 第四十五...
 第四十六...
 第四十七...
 第四十八...
 第四十九...
 第五十...
 第五十一...
 第五十二...
 第五十三...
 第五十四...
 第五十五...
 第五十六...
 第五十七...
 第五十八...
 第五十九...
 第六十...
 第六十一...
 第六十二...
 第六十三...
 第六十四...
 第六十五...
 第六十六...
 第六十七...
 第六十八...
 第六十九...
 第七十...
 第七十一...
 第七十二...
 第七十三...
 第七十四...
 第七十五...
 第七十六...
 第七十七...
 第七十八...
 第七十九...
 第八十...
 第八十一...
 第八十二...
 第八十三...
 第八十四...
 第八十五...
 第八十六...
 第八十七...
 第八十八...
 第八十九...
 第九十...
 第九十一...
 第九十二...
 第九十三...
 第九十四...
 第九十五...
 第九十六...
 第九十七...
 第九十八...
 第九十九...
 第一百...

元老院會議筆記明治十三年三月十九日

○第七十七號議按明治九年第八十二號第九十四號第九十九號第一百零三號
號布告中改正 第七十八號議按明治十年第四十九號 檢視會
儀布告按

議長 大木 喬任

出席議員

- 一番 玉乃 世履
- 二番 齋藤 利行
- 三番 大久保一翁
- 四番 津田 眞道
- 八番 細川潤次郎
- 九番 神田 孝平

- 十番 水本 成美
- 十一番 伊集院兼寛
- 十二番 岩下 方平
- 十三番 楠田 英世
- 十六番 林 友幸
- 十七番 秋月 種樹
- 十八番 東久世通禧
- 十九番 津田 出
- 廿一番 河瀬 眞孝
- 廿四番 山口 尙芳
- 廿五番 河田 景與

午前第十時二十九分開場

○議長 第七十七號第七十八號議按ノ檢視會ヲ開ク例ニ遵ヒ發

議スヘシ

○書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

布告按

明治九年^六第八十二號第九十四號同年^{十二}第百五十三號明治十年^八第五十五號明治十二年^二第九號同年^五第十九號布告中商船ノ文字ヲ刪リ西洋形船ト改正候條此旨布告候事

○議長 發議ナキヲ以テ本按ハ不備不明等ノ廉ナシトスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク起立セルヲ以テ續テ第七十八號議按ノ檢視會ヲ

開ク例ニ遵ヒ發議スヘシ

○書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

○布告按

明治十年七月第四十九號布告自今廢止候條此旨布告候事

○八番 細川潤次郎 本按不備不明ノ廉ナシ唯其沿革ヲ陳述スルモ敢テ無

用ニアラサルヲ信ス抑本按ノ原由タル明治十年第四十九號布告ヲ

發セシハ當時裁判官未タ熟煉セス法律モ亦未タ整頓セス是ヲ以

テ適マ裁判ノ不當ナルモ既ニ確定ニ至レハ之ヲ挽回スルノ道ナシ

故ニ止ムコトヲ得ス設ケタルノ法ナリ然リト雖モ既ニ裁判確定ノ宣

告ヲ爲セシモ司法卿ノ命ヲ以テ再審ヲ爲サシムトセハ殆ント底止

スル所ナシ又人民モ民事刑事ニ關セス已ニ確定ノ裁判ト信セシ者

モ一朝忽チ破潰シ又タ無罪ト信セシモ忽チ刑罰ヲ科セラレ一旦得

タル物件ヲモ失フカ如キニ至ツテハ人心一日モ堵ニ安ンスルコトヲ

得ス故ニ明治十年七月本院ニ於テ意見書ヲ作り之ヲ上奏セリ想フ

ニ今回本按ヲ檢視ニ附セラル、ハ即チ該意見書ヲ採用セラレシ故

ナランカ議者或ハ謂ン如是ハ後來不當ノ裁判ヲ宣告セラル、モ之

ヲ平反スルコトヲ得スト決シテ然ルニ非ス目下已ニ審査スル所ノ治

罪法第四百三十五條ニ法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ

又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル場合ニ於テ定期内ニ上訴スル者ナクシテ其裁判言渡確定シタルキハ大審院檢事長ヨリ司法卿ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ非常上告ヲ爲スコト得ト揭載セリ然ラハ則チ明治十年第四十九號布告ヲ廢スルモ實際上決シテ差支アルコトナシ又タ不備不明抵觸スル所ナシ故ニ速ニ可決アラシコトヲ望ム

○一番玉乃世履八番ノ説太々明了ナリ別ニ喋々ヲ要セサルモ聊所見ヲ陳フヘシ例ヘハ刑事ニ於テ百日ノ懲役トナルヘキヲ大審院ニテ不法ト爲スノ場合ニ於テハ嘗テ司法卿ヨリ上申セシヲ以テ其上告期限ヲ過キタルモ尙ホ差支ナカリシト同一ノ理ナリ故ニ本按ヲ可トス

○十三番楠田英世

法律未タ整備ナラサルニ方テハ往々錯誤ナキヲ免レス故ニ其再審ヲ要スルモ止ムコトヲ得サリシナリ例ヘハ橋上ニ闘毆シ人ヲ水中ニ擠陷シ其人必ラス溺死シタリト認メタルモ其人適マ游泳術ニ熟シタルヲ以テ死ヲ免ル、場合等アリ又タ其他ニモ此ノ如キ例アリテ毆殺等ニハ往々錯誤アルヲ免レス明治十年第四十九號ノ布告ハ右ノ如キ場合ニ適用スルモノタリ然ルニ法律モ漸次整頓ニ至リタルヲ以テ今日ニ在テハ該布告ヲ廢スルモ事實ニ於テ決シテ支障アルコトナシ仍テ本按ヲ可トス

○議長 本按ハ不備不明ニ非スト思考スル者ハ起立スヘシ

全員悉起立

○議長 全員悉ク起立可ト決ス故ニ第七十七號及ヒ第七十八號

共異議ナク檢視ヲ經過セシ旨ヲ以テ例ニ據リ上奏スヘシ散會セヨ
午前第十時四十一分閉場

○議案 議案ノ一 議案ノ二 議案ノ三 議案ノ四 議案ノ五 議案ノ六 議案ノ七 議案ノ八 議案ノ九 議案ノ十 議案ノ十一 議案ノ十二 議案ノ十三 議案ノ十四 議案ノ十五 議案ノ十六 議案ノ十七 議案ノ十八 議案ノ十九 議案ノ二十 議案ノ二十一 議案ノ二十二 議案ノ二十三 議案ノ二十四 議案ノ二十五 議案ノ二十六 議案ノ二十七 議案ノ二十八 議案ノ二十九 議案ノ三十 議案ノ三十一 議案ノ三十二 議案ノ三十三 議案ノ三十四 議案ノ三十五 議案ノ三十六 議案ノ三十七 議案ノ三十八 議案ノ三十九 議案ノ四十 議案ノ四十一 議案ノ四十二 議案ノ四十三 議案ノ四十四 議案ノ四十五 議案ノ四十六 議案ノ四十七 議案ノ四十八 議案ノ四十九 議案ノ五十 議案ノ五十一 議案ノ五十二 議案ノ五十三 議案ノ五十四 議案ノ五十五 議案ノ五十六 議案ノ五十七 議案ノ五十八 議案ノ五十九 議案ノ六十 議案ノ六十一 議案ノ六十二 議案ノ六十三 議案ノ六十四 議案ノ六十五 議案ノ六十六 議案ノ六十七 議案ノ六十八 議案ノ六十九 議案ノ七十 議案ノ七十一 議案ノ七十二 議案ノ七十三 議案ノ七十四 議案ノ七十五 議案ノ七十六 議案ノ七十七 議案ノ七十八 議案ノ七十九 議案ノ八十 議案ノ八十一 議案ノ八十二 議案ノ八十三 議案ノ八十四 議案ノ八十五 議案ノ八十六 議案ノ八十七 議案ノ八十八 議案ノ八十九 議案ノ九十 議案ノ九十一 議案ノ九十二 議案ノ九十三 議案ノ九十四 議案ノ九十五 議案ノ九十六 議案ノ九十七 議案ノ九十八 議案ノ九十九 議案ノ百 議案ノ百一 議案ノ百二 議案ノ百三 議案ノ百四 議案ノ百五 議案ノ百六 議案ノ百七 議案ノ百八 議案ノ百九 議案ノ百十 議案ノ百十一 議案ノ百十二 議案ノ百十三 議案ノ百十四 議案ノ百十五 議案ノ百十六 議案ノ百十七 議案ノ百十八 議案ノ百十九 議案ノ百二十 議案ノ百二十一 議案ノ百二十二 議案ノ百二十三 議案ノ百二十四 議案ノ百二十五 議案ノ百二十六 議案ノ百二十七 議案ノ百二十八 議案ノ百二十九 議案ノ百三十 議案ノ百三十一 議案ノ百三十二 議案ノ百三十三 議案ノ百三十四 議案ノ百三十五 議案ノ百三十六 議案ノ百三十七 議案ノ百三十八 議案ノ百三十九 議案ノ百四十 議案ノ百四十一 議案ノ百四十二 議案ノ百四十三 議案ノ百四十四 議案ノ百四十五 議案ノ百四十六 議案ノ百四十七 議案ノ百四十八 議案ノ百四十九 議案ノ百五十 議案ノ百五十一 議案ノ百五十二 議案ノ百五十三 議案ノ百五十四 議案ノ百五十五 議案ノ百五十六 議案ノ百五十七 議案ノ百五十八 議案ノ百五十九 議案ノ百六十 議案ノ百六十一 議案ノ百六十二 議案ノ百六十三 議案ノ百六十四 議案ノ百六十五 議案ノ百六十六 議案ノ百六十七 議案ノ百六十八 議案ノ百六十九 議案ノ百七十 議案ノ百七十一 議案ノ百七十二 議案ノ百七十三 議案ノ百七十四 議案ノ百七十五 議案ノ百七十六 議案ノ百七十七 議案ノ百七十八 議案ノ百七十九 議案ノ百八十 議案ノ百八十一 議案ノ百八十二 議案ノ百八十三 議案ノ百八十四 議案ノ百八十五 議案ノ百八十六 議案ノ百八十七 議案ノ百八十八 議案ノ百八十九 議案ノ百九十 議案ノ百九十一 議案ノ百九十二 議案ノ百九十三 議案ノ百九十四 議案ノ百九十五 議案ノ百九十六 議案ノ百九十七 議案ノ百九十八 議案ノ百九十九 議案ノ百

元老院會議筆記明治十三年四月九日

○第一百七拾九號議案 地租改正後收稅方第一讀會

議長 細川潤次郎

出席議員廿四番

- 一 番 番 玉乃 世履
- 二 番 番 齋藤 利行
- 三 番 番 大久保一翁
- 四 番 番 津田 眞道
- 九 番 番 神田 孝平
- 十 番 番 水本 成美
- 十三番 楠田 英世

十四番	黒田 清綱
十五番	大給 恒
十七番	秋月 種樹
十八番	東久世通禧
十九番	津田 一田
廿一番	河瀬 眞孝
廿二番	福羽 美靜
出納官廿四番	山口 尙芳
廿五番	河田 景與
廿六番	伊丹 重賢
元來開會 廿七番	楠本 正隆

廿八番 安場 保和

○議長 第七十九號議按第一讀會ヲ開ク例ニ遵ヒ發議スヘシ
 午前第十時二十五分開場
 内閣委員 外 太政官權大書記官山崎 直胤

書記官 城多 代理 左ノ按ヲ朗讀ス
 布告按

第一條 明治七年第五十三號ヲ以テ地租改正後五ヶ年間ハ當初定メタル地價ニ據リ收稅致スヘキ旨布告及ヒ置シ處仍ホ明治十八年迄据置收稅致スヘシ但府知事縣令ニ於テ當初定メタル地價不適當ナリト思量シ其事由ヲ具申スルハ大藏卿ハ検査員ヲ派遣

シ實地調査ノ上一村又ハ一郡區限リ特別修正ヲ聽許スルヲアル

ヘシ

第二條 改租以後地目變換田ヲ畑ニ畑ヲ田ニ爲スノ類セルモノハ五年滿期

ニ際シ總テ現地目ニ組換地價ヲ修正シ爾後變換スル者ハ其年々

修正スヘシ

第三條 前條ニ依リ修正ヲ加フル時ハ明治六年第二百七十二號布

告ノ地租改正條例及ヒ同年七月大藏省事務總裁布達ノ地租改正

施行規則ニ依リ其費用ハ官吏ノ旅費日給ヲ除クノ外悉皆修正ニ

該ル郡村ヨリ支出スヘキモノトス

第四條 地價修正ノ後租額ノ増減ハ其修正聽許ノ年ヨリ改正スル

モノトス

右布告候事

○外一番山崎直胤

茲ニ本按ヲ要スル理由ヲ陳ヘン抑々地租改正ハ明治

六年ヲ以テ着手ノ初メトシ今年ニ至リ其間六閱年ニシテ一二ノ地

方ヲ除クノ外大凡順整ノ途ニ就ク下雖モ各地民情ノ同一ナラサル

ニ依リ未タ以テ十分ノ平準ヲ得難キ者アリ是レ正ニ維新日尙淺ク

封建ノ餘習ヲ脱却スル能ハサルニ由レリ蓋シ地租改正ノ困難ナル

ハ各國一轍ニシテ彼文明ナル歐洲諸邦スラ數十年ノ久キヲ經テ猶

未タ其平準ヲ得スト聞ケリ況ヤ我邦ニ於テウヤ然リト雖モ特ニ其

平準ノミヲ欲シ屢々之ヲ變更セハ却テ怨嗟ノ源トナリ官民背馳ノ

情ヲ醸スノ恐レアリ且當初改正ノ時ト今日トヲ比フレハ今日ノ米

價ハ殆ト前日ニ倍スルヲ以テ今之ヲ改正セハ政府ノ歲入ハ増加ス

ヘシト雖モ人民ハ必ス其加税ニ苦ムナルヘシ故ニ依然舊ニ依リ人民ヲシテ利澤ニ沾ハシメントス是即チ本按起因ノ大眼目ナリ然レモ當初ノ改正ニ際シ或ハ一時説諭ヲ以テ人民ヲシテ承諾セシメシ者ナシト爲サス是等ハ乃チ速ニ修正ヲ加ヘサルヘカラサルモノトス是亦本按ニ特別修正ノ文字アル所以ナリ又本按ニ地價不適當ナルモノヲ修正ストアレハ増減共ニ修正スヘキ理ナリト雖モ其實ハ輕減ヲ主旨トセシノミ故ニ其減額ハ概略百二三十萬圓ノ目的ナレモ實際或ハ二百萬圓ニ至ルモ期ス可ラスト思惟ス

○十三番 楠田 英世 本按ヲ可トス元來日本ノ田制ハ古昔ハ町反ヲ以テシ豐臣氏ハ石高ヲ以テシ徳川氏之ニ依レリ故ニ其收納ハ各同シカラス王政ノ時ハ一反ヲ三百六十坪トシ一坪ニ一升ト量リ一人一年ノ

食トセリ當時天下無事其收納ハ朝廷及ヒ百官ノ費用ニ供スルノミ爾後軍役等國用不貲ナルヲ以テ收納額ニ不足ヲ生シ遂ニ町反法ニ改ム徳川氏ノ代本多正信ノ建議ニ由リ人民ノ食料ノミヲ餘シ其他ハ盡ク之ヲ徵收セシヨリ諸侯モ亦皆之ニ例ヘリ維新後ノ地租改正ハ實ニ其宜キヲ得タルモノナレハ本按ノ如ク更ニ五ヶ年間据置カントスルハ最モ可ナリ

○二十六番 伊丹 重賢 本按ヲ可トス

○二十四番 山口 尚芳 本按第二條中地目變換ノ下田ヲ畑ニ畑ヲ田宅地ニ爲スノ類トアリ特ニ田ヲ畑ニシ畑ヲ田宅地ニ爲スノミニ止ラス其類ハ種々アルヘシ然ルニ其變換アル毎ニ年々之ヲ修正スルノ主意ナルカ之カ辨明ヲ乞フ

○外一番山崎

然リ年々修正セサルヲ得ス何トナレハ地目變換ハ其

類許多アリ然ルニ其地目ヲシテ依然五ヶ年間据置クモハ其滿期ニ至リ地租ト地目ト二様ノ改正ヲ爲サルヲ得ス又之ヲ据置モ畑ヲ田ニセシ時ノ如キハ租額ニ差等アルヲ以テ敢テ苦情ナシト雖モ之ニ反シテ田ヲ畑ニ爲ス者ニ在テハ其苦情ナキト能ハス故ニ其修正ハ年々爲サルヲ得サルナリ

○二十四番山口

尙芳

本按ハ大修正ヲ加ヘサルヘカラス先ツ第一條ハ主

意ヲ變換スヘシ何トナレハ當初地租改正ノ法タル五ヶ年毎ニ之ヲ爲スノ原則ナリ若シ政府之ヲ確守セサルニ於テハ別ニ人民ヲシテ其心志ヲ満足セシムヘキ法ヲ設ケサル可カラズ仍テ猶五ヶ年間据置クヲ以テ不便利トセハ宜ク具申スヘシト云フノ意ヲ以テ人民ニ

布令スルニ非レハ不可ナリトス然ルニ但府知事縣令ニ於テ當初定

メタル地價不適當ナリト思量シ其事由ヲ具申スルモハ云々ト云カ

如キハ何ヲ以テ政府ハ壓制ノ誹謗ヲ免ル、ヲ得ンヤ又第二條ニ就

キ内閣委員ノ田ナレハ五圓ノ收納ナルニ既ニ資本ヲ費シテ畑ト爲

サハ政府ハ其地租ヲ減シテ二圓五拾錢ト爲ストノ辨明ハ頗ル解シ

難ク此ノ如クハ我國ノ地價ハ年々其品位ヲ減スルヤ必セリ何トナ

レハ例ヘハ資本ヲ費シ畑ヲ田ニ爲セハ年々若干ノ作徳アリテ些少

ノ利子ヲ得ヘキモ其變換ヲ爲セハ忽チ地租ヲ増加セラル故ニ寧ロ

田ヲ畑ニシ其減額ヲ要請スルノ得策タルニ如ストスルヲ以テナリ

已ニ荒野ヲ開墾セハ十年間缺下年季ヲ與フルノ例アリ獨リ何ソ畑

ヲ田ニ爲スニ於テ其用捨ナキヤ故ニ本條モ修正セサル可ラス隨テ

第三條第四條モ亦修正スヘキナリ

○番一山嶺
外一番直胤

廿四番ハ第一條ノ但府知事縣令ニ於テ當初定メタル地價不適當ナリト思量シ云々トアルヲ以テ當時官吏ノ詐僞脅迫ニ出タルモノト誤認セシナルヘシ若シ果シテ地方官ノ詐僞脅迫ヲ爲ス如キ狀跡アラハ人民ハ何時ニテモ其改正ヲ要請スルヲ得ヘシ何ソ其特別ノ修正ヲ俟ンヤ本按ハ決シテ此等ノ爲メニ設ケタルニ非ス第二條モ亦然リ蓋シ本條ハ政府ノ收額ヲ増加スル爲ニアラス又好シテ地目ヲ變換スル爲メニアラス其天災地變ニ罹リタルモノ、爲メナリ例ヘハ水路斷絶スル時ハ水田モ畑ト爲サ、ルヲ得ス是本按ヲ要スル一理由ナリ然ルニ其好シテ地目ヲ變換セシモノモ全ク之ヲ除クニハ非スト雖モ此等ノ類ハ實ニ僅々タルモノナレハ論ス

ルニ足ラストナスノミ畢竟本按ハ一部分ニ就キ量ルニアラス全體ヲ見テ創定セシナリ若シ眞ニ惡法ナレハ當ニ修正ニ止マラス斷然廢按トナスモ可ナレトモ誤解ヲ以テ修正スヘシト論スルハ不可ナラスヤ

○一番玉乃
世履

本按第一條ニ地租ハ仍ホ五年間据置クト雖モ止ムヲ得サルモノハ之ヲ改正スルコトヲ云ヒ其第二條ニ八年々修正スルコトアルヲ云ヒ其第三條ニハ修正ニ係ル費用ノコトヲ掲ケ而シテ其文中其費用ハ官吏ノ旅費日給ヲ除クノ外悉皆修正ニ該ル郡村ヨリ支出スヘキモノトストアリ地目變換ニ就キ一己ノ修正ニ係ル費用ノコトハ本條ニ脱漏セシカ如シ如何

○番一山嶺
外一番直胤

第二條ハ一人一己ニ係ルモノト見ルヘシ但若シ一郡

○村ニ涉ルコアラハ第三條ニ依ルト雖モ第二條ノ費用ハ幾何ナルヤ豫メ期シ難シ先ツ行政上尋常ノ費用ノミ

○廿四番山口 尙芳一讀會ニ於テハ討論ヲ許サ、ルノ成規ナルモ内閣委員ノ駁議ノ如キハ一應之ヲ辨セサルヲ得ス第一條中當初定メタル

地價不適當ナリトアルヲ惡意ヲ以テ判定シタリト云フト雖モ決シテ否ラス原來此ノ如キ文章ヲ法律中ニ掲クルハ不可ナルニ因リ乃

○ナ之ヲ修正セント欲スルノミ又第二條ハ天災ノ時ニ方リ用フル爲メニ創設セリト辨明スト雖モ本按ニ就テ反覆之ヲ見ルモ其意ナリ

ト見解ヲ下ス能ハス殊ニ天災ニ罹リタル時ノ如キハ他ニ之ヲ處スルノ方法存スルアリ何ソ此按ヲ要センヤ且委員ハ地租ノ減少云々

ヲ以テ答フルモ本官ノ所見ハ到底本按ハ租稅ヲ增收スル目的ナリ

ト信スルナリ

○一番玉乃 世履第一條第二條ハ間然ナシ此ノ如クナラサレハ地租改正

ノ目的ニ背クト云フヘシ然レトモ第三條ハ修正セサル可カラズ其修正ハ第五讀會ニ提出スヘシ第四條モ亦不可ナシ第一條中地價不

適當云々ニ就キ議論アレモ之ヲ以テ地方官ノ罪ト爲ス可ラス畢竟五公五民ヲ金額ニ換ヘタルニ起因セルノミ加之地價ハ其賣買ニ由

○リ必ス變換スル者トス故ニ第二條ノ如ク年々之ヲ修正スルモ妨ケナシト雖モ果シテ然ラハ官民トモニ其煩雜ニ堪ヘサルナリ因テ地

目ハ五年間据置ト爲セシナリ而シテ今其滿期ニ際セシヲ以テ更ニ其延期如何ノ論ナガルベカラズ是レ當然ノコトス其不適當云々

ハ當初地方官ノ心算ヲ誤マレルニ由ルニ非ラスシテ自然ニ生スル

モノナリ例へハ高輪ノ地價ハ鉄道ノ開設ニヨリテ其品位ヲ卑ウシ野蒜ハ築港ニ依テ其地價ヲ尊クセシ如シ又上州ノ如キ養蠶ノ盛ナル地方ノ桑園ハ生糸ノ盛衰ニ依リ該地價モ亦隨テ昇降アルト一般ナリ故ニ第一條ハ毫モ不可ナシトス

○廿七番 楠本正隆

本按ヲ可トス元來地租改正ノ舉タル其手數ノ煩ヒハ姑ク閣テ論セス其費用ノ夥多ナルニ苦シムヲ以テ今已ニ滿期ニ至ルモ仍ホ十八年マテ据置キ其終局ヲ待テ適當ノ處分ヲ爲サントスルハ是レ止ムヲ得サルニ出ルモノナリ夫レ地租改正ノ舉タル固ヨリ其不公平ナキ能ハス現ニ奥州ノ地租ハ重ニ失シ中國ハ輕ニ失シタルノ事情アリ本年ハ已ニ其改正ノ期限ナレハ其最モ不適當ナルモノヲ修正シテ以テ一時ノ責ヲ塞クノ法ナカル可ラストス乃チ本

按ハ之カ爲メ創定セシモノニシテ今日ニ在テハ實ニ止ムヲ得サル者ナリ仍テ本按ノ大意ヲ可トス

○九番 神田孝平

本官ハ異論ナシ却テ本按ノ寬大ヲ奇トス已ニ地租改正以來納租ハ薄ク米價ハ日ニ厚キヲ加ルヲ以テ人民ノ利便ヲ得ルヤ實ニ鮮カラスト雖モ之ニ反シテ政府ノ用度ニ不足ヲ生スルハ理ノ最モ見易キモノナリ今ヤ地租ヲ増スモ亦止ムヲ得サルノ時機ナラント思惟スルニ當リ却テ此法令ヲ布カル、ハ政府慈仁ノ敦キ感服ニ餘リアリ故ニ速ニ本按ノ如ク決議ナランヲ希望ス

○議長 發議盡キタルヲ以テ第一讀會ハ此ニ畢リ午餐後第百八十二

號議按ノ第一讀會ヲ開クヘシ

○外 一番 山崎直胤 本按ハ急施ヲ要スルヲ以テ午餐後引續第二讀會ヲ開

○カレシヨヲ請求スハ...

○議長 内閣委員ノ請求アレモ第百八十二號モ急施ヲ要スル法按ニ

○シテ該委員モ已ニ出席タルヲ以テ本按第二讀會ノ期日ハ追テ報

告セシ散會スヘシニ本議ノ成ル迄ハ...

午後零時五分閉場

是子良長ナリ...

實ニ難ク...

以來餘財ハ...

○此議...

本官ハ...

本議...

大...

元老院會議筆記明治十三年四月二十六日

○第百七拾九號議按 地租改正後收稅方 第二讀會 景興

議長 佐々木高行

出席議官 廿三番

二番番 齋藤 利行

三番番 大久保一翁

四番番 津田 貞道

八番番 細川 潤次郎

九番番 神田 孝平

十番番 水本 成美

十二番 伊集院兼寛

十二番 岩下方平
 十三番 楠田英世
 十五番 大給恒
 十六番 林友幸
 十八番 東久世通禧
 十九番 津田一出
 廿一番 河瀬真孝
 廿二番 福羽美靜
 廿四番 山口尙芳
 廿五番 河田景與
 廿六番 伊丹重賢

廿七番 楠本正隆
 廿八番 安場保和
 廿九番 柴原和
 三十番 鶴田皓
 三十一番 箕作麟祥
 三十三番 本田親雄

○議長 第七十九號議按第二讀會ヲ開ク例ニ遵ヒ發議スヘシ

○書記官 森山左ヲ按テ朗讀ス

○布告案

第一條 明治七年第五十三號ヲ以テ地租改正後五ヶ年間ハ當初定

メタル地價ニ據リ收稅致スルハ其旨布告及ヒ置シ處仍ホ明治十八

○ 年迄據置收稅致スルハ但府知事縣令ニ於テ當初定メタル地價不

適當ナリト思量シ其事由ヲ具申スルハ大藏卿ハ検査員ヲ派遣

シ實地調査スルニ付又ハ六郡區限ハ特別修正ヲ聽許スルコトアル

ヘシ

○二十七番 楠本 正隆 内閣委員ニ質問セシ本按ニ所謂地價不適當ト云フ

モノハ現時ニ在テ不適當トナスニ非ス乃チ五ヶ年間米價ヲ平均ス

ルニ最前定メタル時ニ於テ已ニ不適當ナルモノヲ謂フ乎

○ 外一番 山崎 直胤 然リ不適當トハ當初定メタル時ニ不適當ナリ論者或

ハ云ン當初ト雖モ不適當ニ之ヲ定ムルノ理ナシト然レモ當時ノ改

正ハ全國一般ニ普及セシムルヨリ或ハ説諭等ヲ以テ承服セシメ

時之ヲ定メタルモノナキ能ハス是今日止ムヲ得ス修正ヲ要スル所

以ナリ

○二十九番 柴原 和 本官ハ前會ニ缺席セシヲ以テ茲ニ内閣委員ヲ辨明

ヲ乞フ本按第一條中一村又ハ一郡區限リ云々トアリト雖モ其不適

當ハ一村又ハ一郡區ニ止マラス甚シキニ至テハ一府一縣悉ク不適

當ナルモノヲ保チ難シ夫ノ中國ノ如キハ當初村吏ノ申報ニ據

○ 里之ヲ定メタリト聞ケハ其幾分カ必ズ不適當ナルモノアラハトス

然レモ本按ニ所謂特別修正トハ一村又ハ一郡區ニ限リ一府一縣ニ

ハ遍及セザルノ意ナリヤ

○ 外一番 山崎 直胤 然リ一府一縣ヲ指シテ云フニ非ス蓋シテ一字ハ限

對照セリ故ニ此意ヲ擴充スレハ數村或ハ數郡ト雖モ修正スルヲ得ルナリ但其修正ハ最モ不適當中特ニ地價ノ貴キニ失シタルヲ修正シ賤キニ失シタルハ修正セサルノ目的ナリ

○八番細川潤次郎 原來地租改正ハ維新以來ノ不是法ナルヲ以テ特ニ一良法ヲ設ケ之ヲ矯正セント欲スルト久シ然ルニ本按ハ當初其不適當ナルモノヲ修正スルノ主眼ニシテ全改正ハ明治十八年迄之ヲ延ヘントスルナリ實ニ是一大良法ニシテ本官ハ口ヲ極メテ之ヲ贊稱セサル可ラス請フ詳ニ之ヲ論セン夫レ地租ノ改正法ハ租稅ヲ減セントスル仁慈ニ出ルハ勿論ナリト雖モ天下ノ之ヲ驚ヤシテ止マサルモノハ蓋シ之カ爲メニ莫大ノ費用ヲ要セサルヘカラサルヲ憂苦スルニアリ是其改正ノ容易ニ爲ス可ラサル所以ナリ然レ正其法令

ニ依レハ五年毎ニ必ス之ヲ爲サ、ル可ラサルモノトス而シテ今日米價騰貴ノ時ニ方リ之ヲ爲サハ納租ノ增加ハ論ヲ俟タス其費用モ亦不貲ナルヘシ我政府ハ既ニ此ニ見ル所アリテ本按ヲ發令セントスルナリ或議官ハ本按ヲ稱シテ困究法ト云フモ其理ナキニ非ス抑根元ノ不是ナルヲ以テ斯ル困究ヲ爲スハ真ニ不可ナリト雖モ之ニ由テ此案ヲ發明セシハ亦頗ル美ナリ彼ノ艱厄ハ發明ノ母ナリト云フノ格言以テ徵スヘシ故ニ本官ハタトヒ之ヲ姑息法トナスモ大ニ其宜キヲ得タルヲ信ス論者或ハ云ン果シテ數次ノ改正ヲ不可トセハ十八年迄ノ延期ニ止マラス何ソ歐米ニ擬ヒ十年或ハ二十年ヲ以テ改正ノ期ト更定セサルヤト然レ正地租改正以來日尙淺シ故ニ今日ニ在テハ本按ヲ以テ緩急其宜キヲ得タルモノト云ハサルヘカラ

ス此ノ如ク本按ノ精神ニ同意スルヲ以テ枝葉ハ敢テ論スルヲ要セ
 ス原按ノ如ク可決センコトヲ希望ス
 ○二十四番山口 尚芳 本按ヲ可トス然レモ文章穩妥ナラサルモアサ思
 量云々是レナリ是レ府知事縣令一人ノ思量ニ止マル者ノ如ク元來
 地租改正ノ舉タル苦情百端紛議音ナラス故ニ此法律ヲ布クヤ人民
 ハ之ヲ變更スルハ獨リ府知事縣令ノ方寸ニ在リト想像シ其修正ヲ
 乞フ者續々絶ヘサルニ至ラン固ヨリ地方官ハ其適否ヲ思量スベシ
 ト雖モ公議輿論ニ出ルニ非サレハ不可ナリ因テ府知事云々以下思
 量シ迄ノ數十字ヲ删除シ當初定メタル地價不適當ナルモノアリ府
 知事縣令ヨリ云々ト改メ又實地調査ノ上一村云々ハトアリテ町
 ノ字ヲ脱セルヲ以テ一村云々ト修正セントス

○十三番楠田 英世 修正ノ字句ニハ不同意ナキニ非サレモ本按ハ頗ル穩
 當ヲ欠クヲ以テ二十四番ヲ賛成ス
 ○議長 廿四番ノ修正説ハ賛成アルヲ以テ問題トス
 ○外一 番 山崎 直胤 一村ヲ一村村ト爲スハ敢テ論セス思量ノ字ヲ删除ス
 ルハ不可ナリ二十四番ハ地方官カ人民ノ情願ヲ左右スルコトモアラ
 シカトノ念アルカ如シト雖モ大藏卿ハ検査員ヲ派遣シ云々トアル
 ヲ以テ思量ノ字ヲ掲クルモ毫モ其掛念ヲ要セサルナリ音ニ之ヲ要
 セサルノミナラス之ヲ刪リ修正説ノ如クスルニ於テハ太々漠然タ
 ルヲ覺フ何トナレハ該事ハ有形物ニ非ス無形物ナレ由人ノ思量具
 依ラスンハ爲スコトヲ得サルヲ以テナリ其之ヲ思量スル者ハ誰ソ則
 チ地方官ガリ故ニ原按ノ如クナラサル可ラス

○二十九番 柴原和 原按ニテ可ナリ假令思量トアルモ地方長官一己ノ

意ヲ以テ左右スルニアラス屬官アリ検査員アリ決シテ之ヲ刪ルヲ
要セサルナリ且本按ニ其事由ヲ具申ストアレハ其事由ノ二字ヲ以
テ漫ニ地方官一己ノ思量ニ依リ斷定ス可ラサルハ明了ナリ但其一
村ヲ一町村ト爲スハ本官モ亦之レニ左祖ス

○二十四番 山口尙芳 事由ヲ具申スルニ思慮セスシテ之ヲ爲スモノ萬々

アル可ラス然ルニ本按ハ地價不適當ナリト思量シ其事由ヲ具申云
々トアリテ宛モ孩提兒ニ示スカ如キ語ヲ用フ固ヨリ律文ノ體裁ヲ
欠ケリ然レモ他ニ害ナキニ於テハ強テ之ヲ論セサルモ若シ此ノ如
クシハ地方官一己ノ專制ヲ以テ之ヲ爲シ得ルモノト思量スルノ嫌
ヒナキ能ハス故ニ之ヲ修正セント欲スルナリ

○二十八番 安場保和 本按ヲ可トス二十四番ハ地方官一己ノ意思ヲ以テ

左右スルノ嫌ヒアリト云フモ決シテ否ラス本按思量ノ字ハ猶認ム
ト云フカ如シ且ヤ地租修正ノコタル地方長官ハ主トシテ之ヲ爲ス
ヘキモ其屬官アリ検査員アリ又法律アリ加之人民利害ニ明カナル
ノ今日ナレハ假令思量ノ字アルモ修正ハ地方官ノ方寸内ニアリト
認メシメサルヲ信スルナリ但一村ヲ一町村ト爲スハ可ナリ

○十三番 楠田英世 本官二十四番ヲ賛成セシ主意ハ思量ノ字ノ存否如何

ヲ考定スルニ於テ寧ロ其刪除ヲ可トナスニ因ルナリ蓋シ思量トハ
手續ノトニシテ茲ニ之ヲ掲ケサルモ已ニ勅諭アリ又此施行規則モ
アリ故ニ之ヲ刪除スルモ敢テ妨ケナキヲ信スルナリ

○二番 齋藤利行 本按ヲ可トス其修正說ヲ聽クニ眼目ニアリーハ思量ノ

字ヲ删除セザレハ地方長官ノ隨意ニ之ヲ爲スレ嫌ヒアリトシ一ハ
 思量スルハ當然ノコナレハ之ヲ掲ケルハ贅文ナリトスルニ在リ原
 來地租ノ改正ハ當初適當ナリシニ今日ニ至リ不適當トナル者アリ
 或ハ當初量見ノ誤リヨリ其不適當ヲ訴ヘ出ルモアルヘク又他ヨリ
 論ヲ起スモアルヘシ而シテ其適不適ヲ思量スルハ地方長官ノ職
 任ナレハタトヒ之ヲ掲ケルモ自己ノ意見ニ由リ左右スルコト得サ
 ルハ明白ナリ加ケルニ大藏省ヨリ検査員ヲ派遣スルヲ以テ毫モ憂
 フルニ足ラス且内閣委員モ論スル如ク思量ノ字ヲ删除セバ文字整
 頓セヌ故ニ之ヲ掲ケルハ却テ律文ノ體裁ヲ得タトス一町ヲ一町
 村ト爲スハ本官亦之ヲ可トス夫レハ本官ノ思量ノ字ハ附屬
 ○二十九番 柴原和 若シ二十四番ノ説消滅セバ六村ヲ一町村ト爲ス

○修正モ併セテ消滅スルヲ惜シム由テ目下ノ問題ハ二段ニ決テ取テ
 行フコトヲ建言ス

○四番 津田眞道 本官ハ唯此一條ヲミナラス全按悉ク其至善至美ナルニ
 驚嘆モシ何ト大レハ當初地租改正ノ時ニ在テハ米價一石五六圓ニ
 過ギテ今日ハ拾圓ヲ超過スルヲ以テ隨テ物價騰貴ニ爲シ政府用度
 ノ不足ヲ生スルヲ識者ヲ俟ツテ後ニ知ラサルナリ然ルニ政府ハ敢
 テ之ヲ意トセステ舊ニ依リ仍ホ十八年迄改正セザルハ人民ノ幸
 福如何ノヤ政府ノ慈仁亦極ル云フヘシ是本官ノ本按ヲ至善至美
 トシテ驚歎スル所以ナリ其狀圖ハ本官ノ書ニ附シテ呈送スルコト
 ○八番 細川潤次郎 本案モ所謂思量ノ字ハ關門ヲ設ケタルト一般ニシテ
 止ムヲ得サル所ヲ推測スル爲ニ之ヲ掲ケタルモノナリ故ニ之ヲナ

カルハカラストス或論者ハ當初ノ改正ニ不適當ナシト云フハ特リ
 怪シムニ足ルノミナラス本官ハ反テ悉皆不適當ナリト斷言セント
 ス何トナルハ郡村市街ヲ問ス其地價ナル者ハ需用ノ便否地味ノ厚
 薄ニ由リ賣買上其價ヲ左右低昂スルカ故ナリ是ヲ以テ眞ニ其適不
 適ヲ判定スルハ恐クハ爲シ能ハサル者トス蓋シ向日改正セシ地價
 ト雖モ必ス其實價ニ非ス乃チ近隣ノ比較ヲ以テ其虛位ヲ定メタル
 ニ過キス是レ決シテ不適當ナシト云フ可ラサル所以ナリ而シテ之
 ヲ實際ニ思量スルモノハ地方長官ニ非スシテ誰ソ仍テ原按ヲ動ス
 ○ヘカヲ但一町村ヲ一町村ト爲スノ修正說ハ之ヲ二別シテ決ヲ取ル
 ○ヲ可トス

○二十二番 福羽 美静 二十四番ノ修正ハ未タ完備ナラサレモ思量ノ字ヲ

刪除シ府知事云々ト地價不適當云々トヲ轉倒シ一村ヲ一町村ト爲
 サシトスルハ本官其宜キヲ得タリトセリ唯惜ム其說中當初定メタル
 ル地價不適當ナルアリトノミナルヲ以テ或ハ漠然云々ノ駁說ヲ來
 セシナラン故ニ本官ハ之ニテノ一字ヲ加ヘ不適當ナル者アリテ云
 ヲトシ以テ其語病ヲ正シ其他原按中布告及ヒ置シ云々ヲ布告ニ及
 ヒ置シ云々ト修正セント欲ス然レモ是等ハ畢竟確定決議ノ時ヲ俟
 別之ヲ爲スモ亦遲シトセヌ到底原按ハ穩安ナラサルヲ以テ二十四
 ○番ニ同意 本官ハ新五ニ向日改メ
 ○外一 番 山崎 直胤 修正說ノ不可ナルハ已ニ各議官ノ辨駁スル所ナレハ
 本員ハ更ニ喋々辨スルヲ要セヌ然レモ目下或議官ノテノ字ヲ加ヘ
 シトノ說ハ已ニ其不備ナル修正ト認ムルモ仮リニ之ヲ贊成シ先ツ

原按ヲ廢棄シ後日ヲ俟テ更ニ修正セント云フカ如キハ太々怪イサ
 本長カ更ス若シ嫌接アラザ宜ク之ヲ發ス不_レ否_レスハ原按ヲ如ク
 ○廿四番^{山口} 本官ノ修正ニ向ヒ頻々駁議アレモ若シ地方長官ノ
 思量ニ任スル本按ハ本按ヲ美舉モ反テ天惡法トナラシム恐ル何_レ
 カ_レハ此ニ十石五租ヲ納ムル者ハ當初定メタル米價ニ據リ金三圓
 ヲ出ス_ル其然_ル玉之_レ現時_ニ米價八圓ニ較_レルハ彼_レ已ニ五
 圓ノ純益_ヲ斯_レ因_テ地方官ハ之ヲ不適當_ト思量シ法令ニ由_テ改正セ
 ハ如何ス_レ若_シヤ是_レ本按ハ到底修正セサ_レ可_ラズトナス所以ナ_リ
 又或_ハテメ_一字ヲ加_ヘシト_ル其_レノ說アレ_モ本官ハ之ヲ加_ヘサルモ
 敢_テ不可_トカ_ララント思量ス應_當ニ_テマ_ニ附_クニ_テハ_一洲_トハ_一爲_ス

○十五番^{大給}

二十四番ノ修正說ハ二段ニ分別シテ決ヲ取ラレン_ト
 ヲ望ム本官ハ前段ニ不同意ナルモ町ノ字插入ノ一段ニ於テハ太々
 可トス若シ町ノ字ヲ插入セサ_レハ町ノ_一ハ關係スルヲ得サルニ至
 ラン由テ前後二段ニ分別シ決ヲ取ラン_トヲ建議ス

○議長

發議已ニ盡キタルヲ以テ二十九番十五番等ノ建議ニ依リ廿
 四番ノ修正ハ二段ニ分別シテ決ヲ取ラン乃チ當初定メタル地價不
 適當ナルモノアリ府知事縣令ヨリ云ヤト爲スヲ可トスルモノハ起
 立ス_レハ_一起立者四人

○議長

少數ニヨリ原按_ニ可決ス次_ニ村_ヲ三_一町_ヲト爲スヲ可トス
 ルモノハ起立ス_レハ_一

○二十四番山口 尙芳

本按ハ修正セサル可ラス請フ其理由ヲ辨セン從來
封建ノ餘弊ニ因リ田ヲ變シテ畑トナス如キハタトヒ水利ノ缺乏等
アルモ尙之ヲ禁止セリ故ニ人民ノ憂戚スルヤ已ニ久シ今本按ハ之
ヲ救治スルノ方法ナレハ其精神ハ太タ嘉スヘキモ猶未タ可ナラサ
ルモノアリ乃チ畑ヲ變シテ田ト爲スモ亦同ク其變換ノ次年ヨリ地
租ヲ増減スル是レナリ抑々田ヲ畑ニスルハ乃チ次年ヨリ之カ地租
ヲ減スルハ可ナリト雖モ畑ヲ田ニスル場合ニ於テ次年ヨリ直ニ地
租ヲ増スハ太タ不可ナリ何トナレハ畑ヲ田ニスルニハ勞力資本ヲ
要スル鮮少ナラス然ルニ其纒カニ成ルニ及ンテヤ忽チ地租ヲ増加
セハ得失利損相償フヲ得サルナリ此ノ如クンハ人民ハ其増租ヲ苦
ニ更ニ將來地目ノ改良ヲ爲スモノナク地價ノ増進此ニ其源ヲ絶ツ

ニ至ルヤ明ケシ看ヨ已ニ荒野ヲ墾闢セハ十有年間歟下年季ト稱シ
免租ノ制在ルニアラスヤ然レハ本條モ亦其精神ニ因リ地價増進ノ
途ヲ開通セサル可ラス仍テ本條ニ一個ノ但書ヲ加ヘ但地價増進ヲ
量リ變換スルモノハ定期ニ至リ修正スルヲ得ニ作ラントス幸ニ贊
成アラシコヲ希望ス

○十三番補田 英世

贊成ス單ニ地目變換ト云ヘハ瑣々タルカ如シト雖モ
理財上關係ヲ生スルヤ極メテ大ナリ故ニ佛國ハ水車風車家屋等ノ
築造ヲ爲ス者ハ竣功ニ至ル迄數年ノ間其地租ヲ免ス畑ヲ開イテ田
トスルモ亦之ニ同シ以テ地價ノ増進ヲ企圖シ以テ人々土着自營ノ
計ヲ爲スノ目的ト爲ス本官ハ是等ニ徴シ既ニ本按ニ大修正ヲ加ヘ
ント欲セシニ適マ二十四番ノ修正說ハ地力ヲ増進セシムルノ同主

義ナルヲ以テ喜テ之ニ左袒スルナリ

○議長

二十四番ノ修正説ハ賛成アルヲ以テ問題トス

○外一番山崎直胤

地目ノ變換アル毎ニ地價修正ノ良否ヲ論セハ毎々之ヲ爲スノ善良ナルニ如サルナリ若シ數年間其修正ヲ爲サレハ簿

册上田畑等地目ノ名稱ニ錯雜ヲ極メ他日之カ修正ヲ爲スノ日ニ至

リ殆ト當初地租改正ヲ爲シタルカ如キ煩雜ヲ生シ官民ノ手數云フ

可ラス且田ヲ畑ニセシ時ニ當リ年々地目ノ修正ヲ爲ス以上ハ畑ヲ

田トスルモ亦均ク年々其修正ヲ爲サル可ラス或議官ハ此場合ニ

限リ定期迄閣クヘシ否ヲサレハ勸農ノ主義ニ背馳スト云フト雖モ

斯ル時ニ在テハ地方官ハ必ス之ヲ斟酌スルニ由リ本按ハ決シテ不

可ナシトス當ニ不可ナキノミナラス斯ノ如クナラスシハ地籍ハ整

頓セサルナリ

○二十四番山口尙芳

委員ノ説ヲ聽クニ第二條ノ精神ハ地籍整頓ニアリ

ト云フ者ノ如シ本官ヲ以テ之ヲ見レハ本條ハ封建ノ餘弊ニ由リ田

畑ノ變換ヲ嚴禁スル如キ束縛ヲ解ク爲メナリト信ス然ルニ一朝巨

多ノ勞力ト資本トヲ費ヤシテ畑ヲ田ニ變換セシニ由リ忽チ田租ヲ

課セラレ殊ニ其租額ハ殆ト畑税ニ倍スル而已ナラス第三條ニ據レ

ハ地目ノ修正ヲ爲スニ其費用ハ郡村ヨリ之ヲ支辨セサルヲ得ス其

レ斯ノ如クナレハ地目ノ變換ヲ爲スニ於テ人民ハ何ノ時カ其利益

ヲ得ヘキヤ蓋シ本按ノ如キハ民間實際ノ狀況ヲ知ラサルニ坐スル

ナリ纔カニ官府ノ費用ノミニ着目スルモ亦以テ年々ノ修正ハ下策

タルヲ知ルヘシ何トナレハ之カ爲メニ官廳及ヒ検査員ノ費用ト戸

長役場等ノ費額手數豈淺少ナラシヤ其煩雜實ニ思フヘシ之ニ反シテ目下本官ノ問題ノ如クセハ官ニ在テハ地租改正ノ年季ニハ官吏モ派遣スヘク同時ニ其修正ヲ爲セハ幾多ノ手數ヲ省キ隨テ費用モ少ク又人民ニ在テハ現ニ増税ノ憂ナク且地目修正ニ係ルノ費用モ輕減シ彼是以テ一舉兩全ト云ツヘシ

○二十九番 柴原和 本條ノ挿注ニ田ヲ畑ニ畑ヲ田宅地ニ爲スノ類トアリト雖モ獨リ此事項ニ止ラス田宅地ヲ畑ニ爲シ荒野ヲ宅地ニ爲ス者アリ故ニ之ヲ修正セサル可ラス又本按ノ如ク年々地目ノ修正ヲ爲セハ地方官ハ其煩ニ堪ヘサルヘシ然レトモ二十四番ノ說ノ如クスルモ亦不可ナリ到底兩者共ニ自己ノ好ミニ出ルモノナレハ地目ノ修正ハ彼此同一ナルヲ宜シトス因テ本官ハ二十四番ノ說消滅セ

ハ本條中其年々修正ス可シトアルヲ改メ三ヶ年毎ニ修正ス可シトノ說ヲ提出セントス今豫シメ此說ヲ爲シ併テ廿四番ニ左祖スル能ハサル所以ヲ述ルコト爾リ

○十三番 楠田英世 二十四番ノ修正說ニ就キ委員ハ官府ノ手數云々ヲ以

テ駁撃スレトモ原來其修正ノ精神ハ十年乙第六號地租改正局達第一條第二條ニ原キタルモノナルヲ以テ本官ハ之ヲ可トセリ又二十九番ノ說ハ荒野等ヲ混同視セシモノ、如シ荒野ノ墾闢及ヒ天災ニ罹ル變換ノ如キハ別ニ規則ノ在ルアリ故ニ之ヲ是認スル能ハス

○二十八番 安場保和 二十四番ノ論旨ヲ尋ヌルニ本條ハ從來田ヲ畑ニスルヲ禁セシ束縛ヲ解ク爲メナリ故ニ年々地目ノ修正ヲ爲セハ勸農ノ主義ニ背戾スト云カ如シ本官ヲ以テ之ヲ見レハ其束縛ハ維新ノ

時已ニ之ヲ解キタリ固ヨリ本按ヲ要セス是ハ之レ只牒簿ノ錯雜ヲ防クカ爲メナリ又年々修正スルモ人民ニ於テ地目ノ變換ヲ欲セハ先ツ其費額ト將來ノ所得トヲ計較シテ後之ヲ爲スモノナレハ更ニ妨ケアルコトナシ乃チ官府ハ之ニ酌量ヲ加ヘテ可ナリ本按ハ決シテ動カスヘカラス

○番一 番山崎 外直胤

二十八番ノ辨明ニテ原按ノ主義略盡セサト雖モ聊之ヲ補ハントス或議官ハ人民ニ於テ僅々タル地目ヲ變換スルモ毎回官吏ノ出張ヲ仰キ其修正ヲ乞フニ至ラハ其得ル所以テ其費ス所ヲ償フニ足ラスト云フト雖モ第三條ニ所謂費用ノコトハ第一條ノ場合ニ適應スル者ノミニシテ若シ一己人ノ修正ニ條レハ其費用ハ概シテ官府ヨリ支辨スルモノナリ又但書八十年地租改正局ノ達書ニ由

ル云々ノ説アレトモ今法律ヲ更設スルニ方リテハ徹頭徹尾前日ノ達書ニ依準セサルヘキナリトナシ況ヤ已ニ舊法ニ障礙アルニ於テヲヤ又或議官ハ原按ハ實際ノ狀況ニ明カナラサルノ説ナリト云フモ地租改正ノ法律タル僅々一ニ條ニ過キス他ハ官省ノ告諭等ニテ爲セシモノニシテ其實際ニ適スルヤ否ヤハ明言シ難シト雖モ本按ハ專ラ當局者ノ起草セシモノナレハ乃チ實際ニ適應スルモノト信スルノ外ナキニシ

○二十四番 山崎 尙芳

委員ハ第三條ハ第一條ノ場合ニノミ適應スト云ト雖モ已ニ第三條ニ前條云々トアルハ則チ第二條ヲ指スニ非スシテ何ソ又一己人ノ修正ニ係ル費用ハ官府ニ於テ支辨スト云フハ何等ノ根據アリテ然ルヤ已ニ田ヲ畑ニシ之ニ五ヶ年間田租ヲ課スルヲ

隣ニ其地目ヲ修正スルノ精神ナレハ畑ヲ田ニセシモノハモ亦寛大
 〚處置ナカル可ラス若シ然ラスシハ之ヲ愛ニ差等アリト云シノミ
 既ニ荒野ヲ墾開セハ勸奨ノ爲メ若干年間墾下免除ノコアルハ本官
 數々之ヲ引用セリ本按須ラク彼レニ則トルヘシ又十三番ハ佛國ノ
 制ヲ引證シ大修正ノ說アレトモ我國ニ在テハ未タ地租改正ノ局ヲ
 結フニ至ラス之ヲ要スルニ尙早シト言ハシノミ目下ノ問題コソ恰
 モ時勢ニ適當セリト云フヘシ

○八番細川潤次郎 第二條ハ微ク語病アルヲ免レス是廿四番等ノ修正說
 アル所以ナリ而シテ其說モ亦以テ語病ナシト云フ可ラス然レモ本
 官別ニ未タ好按ヲ得ス因テ姑ク原按ニ同意ス凡ソ事物ヲ論スルハ
 必ス先ツ其源頭ニ遡ラサル可ラス本官ノ本案ヲ仮認スルモノハ唯

十八年迄据置クノ一語ヲ以テナリ蓋シ第二條ノ末文ノ如クセハ或
 ハ一二矛盾スル者アルカ如シ夫レ地價ハ時々低昂スルモノナリ例
 ヘハ家屋アル所ハ其地價昂貴ナルモ一朝灰燼ニ委スレハ頓ニ低落
 スルヤ必セリ又一ノ畑地ニテモ其植種物ニ依リ地價ニ低昂ヲ生ス
 ル如キノ類許多論舉スルニ違アラス此等ノ諸項ヲ斟酌シテ第二條
 ニ依リ修正ヲ加フル所ハ遂ニ十八年迄据置クヲ不可トスルニ歸向
 スヘキナリ思フニ地租改正ノ弊ハ已ニ各位ノ熟知スル所ニシテ
 第一條ノ可決セシハ則チ之カ爲メナラスヤ然ルニ變換アル毎ニ年
 ヲ之ヲ改メントセハ第一條モ其效用ヲ空ウスルニ至リ遂ニ二十四
 番ノ但書ヲ加フルノ說ニ左袒セサルヘカラサルカ如シ然レモ該說
 モ亦第一條ト對照セハ掣肘ノ患ナキニアラス故ニ主ハ從ヲ兼ヌル

ノ原則ニ依リ既ニ第一條ノ但書モアレハ本條ハ删除スルモ可ナル
 カ如シト雖モ尙良説ヲ得サレハ已ヲ得ス原案ニ從ハサルヘカラス
 故ニ本官ハ更ニ考案ヲ得ハ之ヲ第三讀會ニ陳述セントスルノ事
 ○二十四番山口 尚芳 抑々本條ノ如キ煩雜ナル手數ヲ要スルハ實ニ止ム
 ヲ得サルトトス例ヘハ水路ノ絶斷セシ時ニハ勢ヒ田ヲ畑ニセサル
 ヲ得ス此時機ニ方リテハ政府ハ必ス之ヲ認可セサル可ラヌ已ニ之
 ヲ認可シ仍舊ニ依リ課税スルハ豈爲スニ忍ビンヤ此レ則チ五ヶ年
 ヲ埃タヌ地目變換アル毎ニ其地價ヲ修正セサルヲ得サル所以ナリ
 既ニ此精神ヲ擴充セハ本官ノ修正ノ如ク一個ノ但書ヲ加ヘ畑ヲ田
 ト爲スモノニモ保護ヲ及ホサヘル可ラサルノ理由ヲ生ス原來我國
 地租改正ノ期限ヲ五ヶ年ト制定セシハ何ニ據ル所ナルヤ之ヲ歐洲

各國ニ徵スルモ未タ曾テ此ノ如キ短期ナル者アルヲ知ラス是畢竟
 各地ノ實況ヲ推究セス單ニ一地方ニシテ輕々年期ヲ制定
 セシ故ナラン乃チ今日延期ヲ頒布ヲ必需トスルニ至ルハ亦勢ヒ
 免レサルモノナリ勢ヒ既ニ此ニ至レハ止ムヲ得サルモスニ限り年
 ヤ之ヲ修正スト云ハサルハ其愛民主義ヲ擴弘スルニ方リ尙盡龍
 ○土點晴ヲ脱スルモノ、如シ不可ニ非スシテ何ソヤ、
 ○二十八番安場 保和 二十四番ニ間フ政府ハ第二條ニ依リ止ムヲ得サル
 減税ノ分ノミ修正シ増税ノ分ハ他ト同ク五ヶ年間据置クヘシト
 主意ナルヤ若シ然ラハ五ヶ年間据置クモ次年ニ至リ年々修正スル
 ○時ハ到底地籍整齊セス且其手數ハ終ニ息ム時ナラシ故ニ寧日田
 畑變換共ニ其區別ヲ設ケス均ク年々修正スルヲ可トス之カ分界ヲ

設ケ手數ヲ省畧スルノ說ハ頗ル解シ難シ

○二十四番山口 尚芳

二十八番ノ疑問モ亦了解シ難シ五ヶ年間ハ地目ノ變換ニ關係セス其儘ニ置クヲ可トス蓋シ本官ハ五ヶ年ハ猶短期ト

セリ然レトモ今日ニ在テハ既ニ定期トナリタルヲ以テ止ムヲ得ス

○ト爲スノミ

○十三番楠田 英世

本邦今日ノ田租ハ四千萬圓ニ過キス是レ墾闢ノ功未ダ盡サ、ルニ因ル故ニ本官ハ大ニ之ヲ改良セント欲スルニ切ナル

ヲ以テ此ニ原則ヲ加ヘントシ則チ二十四番ノ修正說ニ左袒セリ若

シ永ク荒蕪ニ付シ舊時ノ觀ヲ改ムルヲ須ヒストセハ亦事ノ論ス可

キナシ苟モ眼ヲ彼レニ注カハ豈默止スヘケンヤ我地租改正期限ノ

如キハ僅々五年ヲ以テ一期トス之ヲ歐州各國大約三十年ヲ以テ一

期ト爲スニ比セハ其差霄壤啻ナラス故ニ本官ハ今此原則ヲ制定シ

○テ他日改良ノ基礎トセント欲ス

○議長 二十四番ノ修正說ヲ可トスルモノハ起立スヘシ

起立者七人

○議長 二十四番ノ修正說ハ少數ニ依リ消滅ス時已ニ亭午ヲ過ルヲ

以テ暫時散會シ午餐後再ヒ開議スヘシ散會セヨ

午後零時第十六分開場

午後第一時十分開場

○議長 退席 內閣委員番外 太政官權大書記官山崎 直胤

○議長 退席 十番 水本 成美

○議長 午前引續キノ會ヲ開ク

○二十九番 柴原和 本條ニ就キ二個ノ修正說アリ午前既ニ其端緒ヲ開キ置シモ仍ホ熟考スルニ其一本條ノ其年々修正スヘシト云ハ第四

條ニ其修正聽許ノ年云々トアルニ依リ之ヲ修正スルヲ要セス只其一タル地目變換ノ挿注ハ省略ニ過ルヲ以テ必ス修正セサル可ラス

トス仍テ田ヲ畑ニ畑ヲ田ニ宅地ヲ田畑并ニ山野ヲ宅地ト爲スノ類ト改メント欲ス蓋シ地租改正局ノ達等ハ此ノ如ク臚列明掲スルヲ

以テ例トスレハナリ

○二十七番 楠本正隆

○議長 二十九番ノ說ハ贊成アルヲ以テ問題トス

○十三番 楠田英世 原來山野ノ稅ハ薄シ故ニ之ヲ宅地ニ變スルヤ忽チ宅

地ノ稅ヲ課スルハ酷ナリ既ニ地租改正施行規則第四條ニ山間海岸

其他ノ宅地他ノ比較無之地價難定分ハ一反ニ付拾錢ヨリ不少稅額

云々トアリ爾後十年七月地租改正事務局甲第一號布達ニ改租ノ際

一反拾錢ヲ以テ稅額ヲ定メタルモノハ十年ヨリ六分ノ一ヲ減シ云

々トアルヲ以テ山野ハ之ニ加ヘスシテ可ナラン然レトモ二十九番

ハ數年牧民ノ職ニ在リ地租等ノ事ニ就テハ必ス摸稜ノ說ヲ爲サ、

ルヲ信ス仍テ一應其辨明ヲ乞フ

○二十九番 柴原和 本官ノ修正說ハ山野ヲ開墾スルニ非ズ宅地ト爲ス

ヲ云フナリ

○十三番 楠田英世 說ノ如キハ太々不可ナリ尋常山野ヲ宅地ト爲スハ近

地ニ比較シ其地價ヲ酌定スルヲ法トセリ且前陳ノ如ク地租改正施

行規則第四條ニモ矛盾スルヲ以テ其修正説ハ非ナトス

○二十四番山口 尙芳二十九番ハ原按ノ精神ヲ解得セサルカ如シ抑々第

一條ハ地租改正ノ延期及ヒ特別修正ノ事ヲ示シ其第二條ハ地目ノ

○變換セルモノハ第一條ニ依ラス年々其地價ヲ修正シ租稅ヲ増減ス

ルヲ示シ之カ義例トシテ挿注ヲ掲ケ以テ第四條ト照應セシメシ者

ナリ故ニ挿注ハ精密ノ臚列ヲ要セス況ヤ原野ノ如キハ他ニ條規ノ

存スルニ於テヲヤ修正説ハ否ナリ

○二十七番楠本 正隆本官ノ二十九番ヲ贊成セシハ律文ノ明瞭ナランコ

ト欲シテナリ蓋シ此修正ノ主意タル山野ヲ開墾スルニ非スシテ專

ラ宅地ト爲スニアリ果シテ然ラハ亦何ノ不可カ之レアラシク

○二十九番柴原 和山野ヲ宅地ト爲スハ實際往々アルコナルニ原按ニ

○其明文ナキヲ以テ茲ニ其不備ヲ補ワカ爲メノ修正ナリ敢テ第一條

○ト關係アルニ非ス

○十三番楠田 英世己ニ委員ハ田ヲ畑ニ畑ヲ田宅地ニ爲スノ外數種ノ變

換アルヘキニヨリ類ノ字ヲ以テ之ヲ包括セシメタリト云ヘリ然ル

ニ今二十九番ノ修正ノ如クンハ其明カナルヲ欲シテ反テ原按ヲ晦

カラシムル者トス

○議長二十九番ノ修正説ニ同意ノモノハ起立スヘシ

起立者三人

○議長二十九番ノ修正説ハ少數ニ依リ廢棄シ本按ニ決シ次條ニ移

ルヘシ

書記官森山 茂左ノ按ヲ朗讀ス

第三條 前條ニ依リ修正ヲ加フル時ハ明治六年第二百七十二號布告ノ地租改正條例及ヒ同年七月大藏省事務總裁布達ノ地租改正施行規則ニ依リ其費用ハ官吏ノ旅費日給ヲ除ク外悉皆修正ニ該ル郡村ヨリ支出スヘキモノトス

○十三番 補田 英世 本條ニハ地租改正施行規則ニ依リ其費用云々トアリ是即チ其修正費用支出ノ方法ヲ示ス者ナラン然ルニ該規則中ニ其費用ノ下ヲ明掲セス甚ク缺ルモノアルカ如シ故ニ之ヲ規則ニ依リテ修正スヘシト作り上文ヲ結ヒ但ソ字ヲ加ヘテ下文ヲ起シ其費用云々ト接續スルヲ可トス田ニ賦課ニ當リテ其費用ハ郡村ヨリ支出スヘキモノトス

○十八番 東久世 通禮 賛成

○議長 十三番ノ修正說ハ賛成アルヲ以テ問題トス

○二十九番 柴原 和 本官モ原按ハ不備ナリト認ムト雖モ十三番ノ修正說モ亦未タ完備ト爲サス本官ハ規則ニ依ルヘシ且其費用云々ト修正セサレハ不可ナリトス

○二番 齋藤 利行 二十九番ノ說ハ一層整齊ヲ加フルモノト雖モ惜ムヘシ其修正ノミニテハ未タ以テ完備トセス蓋シ本條末文ニ修正ニ該ル郡村云々トアリト雖モ其修正ヲ要スル者豈特ニ郡村ノミニ限ラシヤ乃チ區町ノ如キ如何セントス故ニ文字ヲ加ヘテ修正ニ該ル郡區町村云々ト作り前條ニ依リ云々ト聯絡セシメサレハ未タ以テ完全ナラストス仍テ十三番ノ修正ハ不可ナリトス

○二十四番 山口 尙芳 本官ハ尙之ニ加ヘテ郡村ヲ郡區町村若クハ所有者ト修正セントス何トナレハ第二條ナル地目變換ノ如キモ亦必ス

個人ノ所有ニ係ルモノナキニテス斯ル費用ハ其所有者ヨリ支出
 ○セシムルヲ以テ允當トス本文ニテハ一般ニ之ヲ郡村ヨリ支出セシ
 ムルヤノ嫌ヒアリ故ニ之ヲ補ヒ以テ其區分ヲ一目瞭然タラシムル
 ヲ要ス
 ○二番 齋藤 二十四番ノ説ヲ聽キ大ニ發明スル所アリ本條ハ第一條
 第二條ニモ關係アルヲ以テ該説尤モ完備ナレハ若シ其説提出シ機
 會ニ方ラハ前説ヲ廢却以改テ之ヲ賛成セントス本文ニ對シテ
 ○三十一番 興作 委員ハ本條中前條ノ字ハ第一條ヲ指スト説明スル
 モ恐ク起草ノ主意ハ前兩條ヲ包括シタル者ナルヘシ故ニ之ヲ明瞭
 ガラシメシ爲メ第一條第二條ト修正スヘシ否ラサレハ單ニ一條ヲ
 指スカ如キノ嫌アレハナリ

○十三番 楠田 修正ノ説紛々雜出シ歸宿スル所ヲ知ラス最早順次決
 英世
 ○ヲ取ルモ遲カラサルヘシ敢テ之ヲ建言ス且其意ヲ明瞭ニ
 ○議長 十三番ノ動議ニ同意ノモノハ起立ス可シ
 ○起立者四人
 ○議長 十三番ノ動議ハ少數ニ依リ廢棄ス
 ○二十四番 山口 本官ハ前條云々ヲ前條云々トシ規則ニ依リ云々
 尙芳
 ○規則ニ依ルヘシ且云々トシ郡村云々ヲ郡區町村若クハ所有者云
 ○ヤト修正セントス其理由ハ已ニ前陳セリ故ニ茲ニ喋々セス但前條
 ○ハ前條々ニ作ルモ猶第一條第二條ト爲スモ妨クナケレハ是等ニ賛
 ○成者ノ選擇ニ任ス
 ○二番 齋藤 賛成ス前條ハ孰レニ作ルモ可ナレトモ之ヲ選フニ於テ

○ハ三十一番ノ説ノ如ク第一條第二條ト爲スヲ可トス
○議長 二番ニ問フ前條云々ハ三十一番ノ修正説ニ同意ナルヤ

○二番齋藤利行 何レニテモ可ナレトモ其美ヲ選フニ於テハ第一條第二條ト爲スヲ可トス二十四番ハ其孰レニテモ賛成者ヲ擇ミニ任スト云

○議長 二十四番ノ修正説ハ賛成アルヲ以テ問題トス

○二十七番楠本正隆 前條云々トアルモ本條ヲ通讀セハ第一條第二條ヲ指スト明瞭ナレハ取テ之ヲ修正スルヲ要セス獨リ郡村云々ハ目下

○二十四番山口尙芳 前條ノ字ハ委員ニシテ猶且誤解セリ豈之ヲ明瞭ニセサルヘケンヤ

○二番齋藤利行 前條トアリテハ決シテ第一條ヲ指ス者ト解スル能ハス

向日議定セシ刑法治罪法ノ如キモ前條トハ必ス直接セシ前條ヲ指シ絶テ前條々ヲ指ス者ニアラス是則チ二十四番等ノ修正説アル所

○三十一番箕作麟祥 二十四番ノ修正説ナル前條々云々ハ「郡區町村若クハ所有者云々」ト主義ヲ殊ニスルヲ以テ之ヲ分別シテ決ヲ取ラレン

○二十九番柴原和 三十一番ノ建言ニ左袒ス

○二番齋藤利行 建議ヲ爲ス三十一番ノ建議ノ如ク二十四番ノ修正説ナル「前條々云々」規則ニ依ルヘシ且其云々「郡區町村若クハ所有者云々」三項トモ都テ其事ヲ殊ニスルヲ以テ議事整頓ノ爲メ之ヲ三段ニ

區分シテ決ヲ取ラレシコヲ望ム

○二十四番山口 尚芳 前條云々ノ修正ハ兩様何レニ歸スルモ本官敢テ異

議ナシ仍テ之カ爲メ故ラニ決ヲ取ラサルモ可トス仍テ建言ス

○議長二十四番三告ク第一條第二條ト爲スカ前條ヤト爲スカ必ス

其一ニ居ルヘシ

○二十四番山口 尚芳 本官ハ已ニ賛成者ノ選擇ニ任ズト陳述セシヲ以テ

○二番藤 齊藤 議官ノ説ニ同々則チ五番ノ説ニ同々則チ五番ノ説ニ同々則チ

○二番藤 齊藤 議官ノ説ニ同々則チ五番ノ説ニ同々則チ五番ノ説ニ同々則チ

ル上ハ三十一番ニ於テモ亦遺憾ナカラシ且思フニ二十四番ノ修正

説ハ區分シテ決ヲ取ルニ及ハストス仍テ本官ハ最前ノ建言ヲ止テ

○議長二番等ノ陳述アルニ依リ一齊ニ決ヲ取ラシ乃チ二十四番ノ

修正説ニ同意ノモノハ起立スヘシニ一則チ五番ノ説ニ同々則チ

起立者十六人

○議長多數可トスルヲ以テ二十四番ノ修正説ニ決シ次條ニ移ルヘ

書記官森山 茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第四條 地價修正ノ後租額ノ増減ハ其修正聽許ノ年ヨリ改正スル

○二十四番山口 尚芳 本條中租額ノ増減云々ヲ租額ノ減額云々ト修正セ

○二番藤 齊藤 議官ノ説ニ同々則チ五番ノ説ニ同々則チ五番ノ説ニ同々則チ

ヲ以テ本官ハ第二條ニ但書ヲ加ヘテ之ヲ彰明ナラシメント欲シ熱

心論到セシモ遂ニ廢滅ニ歸ス今又此説ヲ提出スルモ恐クハ賛成ヲ

得サテシカ然レトモ亦修正セサレハ全ク本按ノ精神ニ背馳スルヲ以テ更ニ此説ヲ爲シ敢テ各位ノ意向ヲ試ミシトヌ

○九番 神田 孝平 賛成ス輕々看過セハ租額ノ増加セシ時ハ其修正聽許ノ

年ヨリ改定セサレハ政府ノ所得ヲ減スルカ如シト雖モ今修正説ノ如キハ人民ノ勉強ヲ勸奨シ大ニ地價ヲ増進スルノ基礎トナルヘキヲ以テ到底政府ノ租額ニ損ナク人民ニ益アリ所謂一舉兩得ト云フヘキナリ

○議長 二十四番ノ修正説ハ賛成アルヲ以テ問題トス

○二十四番 山口 尚芳 已ニ問題タルヲ得シ上ハ再ヒ修正ノ主意ヲ開陳セシ原按ノ如クシテハ意味充分ナラス或ハ増額ヲモ修正スルニ至ルノ嫌ヒアリ原來地價ノ不適當ト云フニ二様アリ乃チ五拾圓ヲ百圓ト

爲シ百圓ヲ五拾圓ト爲ス是ナリ本按ハ專ラ五拾圓ヲ百圓ト爲セシ如キノ謬リヲ正サントスルノ精神ナレハ増ノ字ハ削除セサル可ラストナスナリ

○九番 神田 孝平 本官ハ前ニ第二條ニ但書ヲ加フルノ修正説ニ左袒セシカ或ハ該説ハ一時黒ヲ白トシ白ヲ黒ト爲スカ如ク聞ユルノ嫌ヒアリシモ目下ノ問題ノ如キハ黒ヲ黒トシ白ヲ白トスル者ニシテ決シテ黒鷺白鳥ノ嫌アルニ非ラス眞ニ是レ好修正ト云ツヘシ

○八番 細川 潤次郎 大切ナル問題ナレハ決シテ黙々ニ附ス可ラス夫レ收稅ノ事ハ國家ノ最大重事ニシテ誠ニ宜ク道理ニ依リテ平準ヲ得ルヲ主トセサルヘカラス抑々本按ノ精神ハ大ニ租額ヲ輕減スルニ在ルヲ以テ已ニ四番ハ此ノ如キ法律ヲ頒布シ能ク國家ノ經濟ヲ維持

ヌルヲ得ルヤ本官ハ其善美ナルニ驚嘆スト迄ニ賞揚セリ宜ナク哉
 言ヤ其減額ハ實ニ人民ニ己ニ對セハ至善至美ト云フノ外ナシト雖
 モ己ニ社會ヲ爲シ邦國ヲ成シ政府ヲ建テ國政ヲ掌ルニ對シテハ素
 ○ヨリ適度應分ノ費用ナカレ可ラス且今代ハ昔時ト異ナリ外國ノ交
 際アリ勢ハ隨テ外見ヲモ修飾セサル可ク又陸海ノ軍備モ整備セ
 サル可ク不凡ノ百般ノ事業皆悉ク然ラサルハ莫シ若ク否ラズシハ
 政府ハ何ヲ以テ成立シ人民ハ何ニ依テ幸福ヲ得ヘキヤ是レ政府ノ
 ○費用ハ人民之ヲ負擔セサル可クサレ所以ニシテ其法ハ則チ適當ノ
 道理ニ依リ人民勞力ノ一部ヨリ之ヲ徵收スルノ外ナキノミ故ニ本
 按ヲ議スルニ方リ若シ理論ヲ以テセハ地租改正ノ法ハ己ニ五ヶ年
 以テ定期トス今該法ニ依リ之ヲ改正スルモ毫モ不可ナキニ似タ

シ而シテ政府ハ人民ノ休養ヲ主トシ目下米價ノ騰貴ニ拘ラヌ當初
 制定セシ地價ニ據リ仍ホ明治十八年迄据置收稅スト發令スル如キ
 ハ其慈仁ノ厚キ本官等之ヲ稱揚シテ措カサル所ナリ然レモ二十四
 番ノ修正說ニ至テハ大ニ過キタルモノアリ故ニ之ニ同意スル能ハ
 ○ス蓋シ第一條ノ但書モ亦必ス増減ノ意ナシトス可ラス己ニ地價不
 適當ト云ハ、右ニ偏セサレハ乃チ左ニ偏シ貴ニ失シ賤ニ失スルモ
 均ク是レ不適當ナリ都テ輕減ヲ欲スルハ人情ノ常ナリト雖モ道理
 ヲ以テ之ヲ推セハ己ニ此ニ輕減セハ亦彼レニ増加スルヲアルヘシ
 若シ其増スヘキノ實アリテ之ヲ増サ、レハ縱ヒ其所有者ニ在テハ
 悅服スルモ傍人ヨリ之ヲ見レハ其不平ヲ訴フルヤ必セリ故ニ郡區
 長等ニ於テ實地之カ斟酌ヲ爲スハ或ハ不可ナシト雖モ苟モ法律ヲ

設クルニ方リ輕減ノミヲ云テ増加ノ點ヲ云ハサレハ那ノ明治六年
ノ聖詔賦ニ厚薄ノ弊ナク民ニ勞逸ノ偏ナカラシメン云々ノ聖意ニ
モ背戻スヘシ蓋シ地價ノ修正ハ猶道路ヲ修繕スルカ如シ其凸處ヲ
刪ルモ其凹處ヲ埋メサレハ到底平坦ハ期ス可ラス地價ヲ減スルモ
之ヲ増スコナキニ於テハ終ニ適當ヲ得ル能ハサルナリ故ニ曰ク三
十四番ノ修正說ハ不可ナリト云フ也
○二十四番山口 尙芳八番ノ說ハ不倫モ亦甚シ本按已ニ地價ハ十八年迄
據置ト謂ヒ而シテ年々之ヲ修正シ其増減ヲ爲スヘシトモハ據置ノ
主義果シテ何クニ在ル政府ハ斯民ノ休養ヲ主トシ十八年迄據置ト
セハ宜ク其輕減ニ修正スルハ本意ナルヘシ若シ増減共ニ修正スト
セハ今日何ノ據置ト云フヲ須シヤ第一條俱書ノ主義ニシテ果シテ

八番ノ說ノ如クナラハ是法律中ニ所謂影武者アリト云ハンノミ此
ノ如クハ但書モ亦刪除セサル可ラスハ善クハ

○八番細川 潤 次郎二十四番ハ自ラ其說ノ非ナルヲ悟ルカ如ク已ニ初發

ニヨリ賛成ナカルヘシト揚言セシ修正ナレハ今敢テ之ヲ駁スルヲ要
セスト雖モ影武者ノ一語ニ至テハ之ヲ辨斥セサルヲ得ス本按中決

○シテ影武者アルニ非ス已ニ本條ニモ増ノ字ノ明文アリ是則チ表武
者ナリ何ソ其レ影ト云ハシヤ本官ノ之ニ見解ヲ下スヤ既ニ輕減ア

レハ亦増加アリ乃チ此法ヲ以テ公平無偏ナリトシテ賛稱スル所以
ナリ尙望ムラタハ法ハ此ノ如クシテ而シテ其實施ニ方リ斟酌取捨

宜キヲ得シコヲ

○二十八番安場 保和二十四番ノ說ハ租額ノ増減ヲ爲スアラハ據置ノ二

○字キ矛盾スト云フト雖モ修正ト改正ト別ヲ翫味セハ自ラ心ニ釋然タルヲ覺フヘシ現ニ今日地價ノ改正ヲ爲サハ必ス當初ヨリ高キニ至ルヘシ是ヲ以テ政府ハ斯民ノ休養ヲ主トシ十八年迄据置惟其不適當ナル者ノミヲ修正スルニ止メ仮令多少ノ増減アリトスルモ多ク慮ルヲ須非又何ヲ据置ノ二字ニ抵觸セシメ不マテ政ニ裨益セ

○二十四番山口 既ニ十八年迄据置ト云ヒ而シテ不適當ナル者六之ヲ増加スヘシトセハ人民ノ疾苦ハ果シテ奈何ソヤ若シ今ニシテ増稅セハ實際反テ當初地租改正ノ時ヨリ甚シキ影響ヲ來スヘシ若シ

○此法案ノ如クシハ地方官ノ修正ニ依リ或ハ地價ヲ増加スルノ嫌ハアリ故ニ本官ハ増ノ字ヲ刪除セサレハ善良ノ法律モ反テ惡結果ヲ得ルヲ恐ルト爲スナリ

○議長 二十四番ノ修正說ニ同意ノモノハ起立スヘシ
起立者五人

○議長 二十四番ノ修正說ハ少數ニ依リ廢棄シ本按ニ決ス乃チ第二讀會ハ此ニ畢ル本日ハ散會スヘシ

午後第三時五十二分閉場

十七番	秋月 種樹
十八番	東久世通禧
廿四番	山口 尙芳
廿五番	河田 景與
廿六番	伊丹 重賢
廿七番	楠本 正隆
廿八番	安場 保和
廿九番	柴原 和
廿三番	本田 親雄

午前第十時二十分開場

○議長 第百七拾九號議案ノ第三讀會ヲ開ク例ニ遵ヒ發議スヘシマ

○議長 第百七拾九號議案ノ第三讀會ヲ開ク例ニ遵ヒ發議スヘシマ

書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

布告按

第一條 明治七年第五十三號ヲ以テ地租改正後五ヶ年間ハ當初定

メタル地價ニ據リ收稅致スヘキ旨布告及ヒ置シ處仍ホ明治十八

年迄据置收稅スヘシ但府知事縣令ニ於テ當初定メタル地價不適

當ナリト思量シ其事由ヲ具申スルハ大藏卿ハ検査員ヲ派遣シ

實地調査ツ上一町村又ハ一郡區限リ特別修正ヲ聽許スルコトアル

○二十九番 柴原 本條但以下ハ削除スヘシ其理由ハ明治九年以前五

ヶ年平均ノ米價ハ四五圓ニシテ以後五ヶ年ヲ平均セハ七八圓ニ

シ

上ルヘシ故ニ今日地租改正ヲ延期ヲ布告セハ人民ハ大ニ歡喜スヘ
 シト雖モ此但以下ヲ存スルハ必ス各地方ニ於テ人民ノ苦情ヲ釀
 成シ紛擾ヲ惹起スノ恐レアリ何トナレハ當初地租改正ノ期ヲ定ム
 ルヤ其第一期ハ明治十四年ト爲スト布告セシモ已ニ石川新潟愛知
 縣ノ如キ愁訴嘆願スル者續々踵ヲ接ス然ルニ今此特別修正ヲ行
 頒布セハ其修正ヲ請願スルモノ千百群ヲ爲シテ至ラン假令此明文
 ナキモ實際ニ於テハ決シテ修正ヲ爲サハルニ非ス此ノ如キハ乃チ
 地方官ノ具狀ニ依リテ之ヲ爲ス可ト以又政府ヨリ特ニ之ヲ官廳
 ニ令スルモ可ナリ加之不適當云々ト明記スルハ那ノ明治六年ノ聖
 詔ニ對スルモ忌憚スヘキ語ナリ彼是ノ理由ヲ以テ之ヲ削除シ單ニ
 十八年迄據置收稅致スヘシ此旨布告候事ト修正シ第二條ヲ全文ヲ

但書トシテ此ニ移シ並ニ第三條第四條等ハ悉皆之ヲ刪リ地價修正
 ニ係ル費用ノ事ヲ如キハ別ニ之ヲ行政ノ處分ニ任シテ可ナリトス
 ○廿六番 伊丹 重賢 賛成ス實ニ廿九番ノ論スル如ク之ヲ削除セザレハ特
 別修正ヲ請願スル者續々輩出シテ地方官ハ其煩雜ニ勝ハズル各
 ○廿四番 山口 尙芳 賛成ス本案ノ主旨ハ固ヨリ間然スル所ナシト雖モ此
 ナ見ヨ地租改正ノ滿期ニ至ラサルモ早ク其修正ヲ乞願スル者各
 府縣正比々之レアリ故ニ一旦本按ヲ頒布スルヤ請願者ハ官衙ニ沓
 至シ其紛雜ハ宛モ復々更ニ地租改正ヲ爲ス如キヲ觀テ現出スルニ
 至ラン又人民ニ於テハ之カ爲メニ爭フテ群集シ職ヲ廢シ業ヲ棄テ
 資財ヲ徒費シ遂ニ國家ノ安寧ヲ害スルニ至ルモ亦保ス可ラス是本

官カ此删除説ヲ可トスル所以ナリ

○廿七番楠本正隆賛成ス抑々地租改正ノコタル當初ノ推測ニ由レハ將

來ニ於テ決テ不是ナカルヘシト断定セシモノト雖モ已ニ之ヲ實施

スルニ方リ苦情百出官民俱ニ困難ヲ極メ遂ニ止ムヲ得ス目下十八

年迄据置云々ノ頒布ヲ要スルニ至レリ然ルニ其文中ニ於テ特別修

正云々フ語アルモ人々以テ政府カ人民ニ對スルノ辭柄ナリト思惟

スルヤ必セリ加フルニ若シ此修正ニ依リ地價ノ増加ヲ爲スコトアレ

ハ其事タル假令條理適當ナルモ人民ハ斷シテ之ヲ不當不理ト看認

スルニ至ルヘシ故ニ到底十八年迄ハ人民ヨリ修正ノ請願ヲ爲サシ

メサルヲ以テ政略上宜キヲ得タル者トス

○議長 廿九番ノ動議ハ成規ノ賛成者ナキヲ以テ廢棄ス本案ニ同意

ノ者ハ起立スヘシ

起立者十一人

○議長 多數ニ依リ本按ニ決ス

○書記官森山茂左ノ按ヲ朗讀ス

第二條 改組以後地目變換 田ヲ畑ニ畑ヲ田宅地ニ爲スノ類セルモノハ五ヶ年滿期

○ 際ニ總テ現地目ニ組換地價ヲ修正シ爾後變換スルハ其年々修

正スヘシ

○議長 本按ニ同意ノ者ハ起立スヘシ

○ 全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決ス

○ 書記官森山茂左ノ按ヲ朗讀ス

第三條 第一條第二條并依修正ヲ加フル時ハ明治六年第二百七

〇 第十二號布告之地租改正條例及ヒ同年七月大藏省事務總裁布達ノ

地租改正施行規則ニ依ルヘシ且其費用ハ官吏ノ旅費日給ヲ除ク

〇 外悉皆修正ニ該ル郡區町村若クハ所有者ヨリ支出スヘキモノ

正スヘシ

〇 議長 本案ニ同意ノ者ハ起立スヘシ

〇 起立者十四人

〇 議長 多數ニ依リ本按ヲ決ス

〇 書記官 左ニ按ヲ朗讀ス

第四條 地價修正ノ後租額ノ増減ハ其修正聽許ノ年ヨリ改定スル

右ノ事
モノ事
モノ事
モノ事

〇 議長 本按ニ同意ノ者ハ起立スヘシ

起立者十四人

〇 議長 多數ニ依リ本按ニ決シ第三讀會ハ此ニ畢レリ之ヲ確定ノ決

議ト看做シ例ニ遵ヒ上奏セン散會スヘシ

午前第十一時廿分開場

十八番 東久世通禧

廿二番 福羽美靜

廿四番 山口尚芳

廿五番 河田景與

廿六番 伊丹重賢

廿七番 楠本正隆

廿八番 安場保和

出陣番 廿九番 柴原和

内閣委員 番外 太政官大書記官渡邊 洪基

○議長 本日ハ議長不参ニ由リ本官代理ヲ爲シ第百八十號議按第一
讀會ヲ開ク例ニ遵ヒ發議スヘシ

書記官 小田切盛徳 代理 左ノ按ヲ朗讀ス

布告按

東京府地方稅取扱方左ノ通被定候條此旨布告候事

第一條 東京府ハ府會ノ決議ヲ以テ其十五區ト六郡ト地方稅徵收
並支出ヲ分別スルヲ得

第二條 東京府ノ營業稅雜種稅ハ制限ニ拘ハラヌ府會ノ決議スル
所ニ任ス

第三條 東京府ハ府會ノ決議ニ從ヒ瓦斯燈費ヲ以テ地方稅費目ノ
一トナスヲ得

第四條 東京府ハ府會ノ決議ニ從ヒ火災豫防費ヲ地方稅費目ノ一

トナスコヲ得

○番二番 洪基

本按起草ノ主趣ヲ辯明セン第一條ノ要領ハ區ハ以テ
商工ノ業ヲ營ムノ地ニシテ郡ハ以テ農夫身ヲ寄スルノ所ナレハ甲
乙素ヨリ同一視ス可ラサルカ爲メニ之ヲ分別シテ地方稅ノ徵收ヲ
許サントスルナリ第二條ノ理由ハ目下ノ制限ハ上ノ區域狹隘ナル
ヲ以テ其下自ラ過重ナルニ至リ制限ヲ立ント欲スルモ未タ其適度
ヲ知ル能ハス是ヲ以テ之ヲ行政官タル府知事ト議政者タル議員ト
ニ任シ其適度ヲ誤ラサランコヲ欲スルナリ第三條瓦斯燈費ハ其設
置ナキ地ニ課スルノ理ナキニ似タレトモ東京府ハ日本全國中最モ
熱鬧ノ地ナレハ固ヨリ街燈ノ設ケナカル可ラス迺チ瓦斯燈ハ之カ
用ヲ爲スニ最良ノ物ナレハ漸次以テ之ヲ全府ニ及ホスモノタリ猶

鐵道ノ全國ニ建設ス可クシテ未タ之ヲ設ケサルカ如シ故ニ其費用
ハ一般ニ課ス可キモノトス又火災豫防費ハ歐洲ニテハ之ヲ警察費
ニ入ル、モ東京府ノ如キハ木造ノ家屋特ニ稠密ニシテ火災最モ甚
キカ故ニ各自其家ヲ保護スルノ旨趣ヲ以テ費用ヲ一般ニ課シ之カ
豫防ヲ爲スハ本府ニ在テ實ニ缺ク可ラサルノ要事タリ故ニ此特別
法ヲ設立スル亦止ムヲ得サルナリ

○二十九番 柴原和

本按可否ノ大意ヲ陳ルニ先チ內閣委員ニ質問セン

トス第三條ニ府會ノ決議ニ從ヒ云々トアリ例ハハ惡疫ヲ患フル者
ハ特ニ本所深川等ノ住民ニ多キハ是レ飲水ノ不良ナルニ由ル故ニ
瓦斯燈ヲ點スルヲ止メ其費額ヲ以テ水道ヲ改良スヘシトシ又或ハ
瓦斯燈ノ利ヲ得ルハ所々均一ナラサルヲ以テ其費用ハ之ヲ協議ニ

委ス可シトスルモ尙之ヲ行フヲ得ヘキヤ第四條ノトト雖モ甲乙其利害ヲ殊ニスルハ亦同シ故ニ此費用ハ火災アリテ甫メテ其所ヘ課スル者ナリヤ

○外一番渡邊洪基

瓦斯燈費ハ若シ府會ノ決議ニテ京橋日本橋等ノ數區

ニノミ之ヲ課シ其他ハ課ス可ラストセハ行政官ハ強テ之ヲ他ニ課スルヲ要セス是レ府會ノ決議ニ從フトアルヲ以テナリ然レトモ京橋區ニ在ルヘキ瓦斯燈ノ費用ヲ以テ全府ニ課スルニ非ス全府下ニアルヘキモノナレハ其費用ヲ全府ニ課スルハ當然ノ理ナリトス又水道ノトハ別論ニシテ本按ニ關係ナシ火災豫防ノ如キハ其便宜ニ從ヒ或ハ不時ニ建築物ヲ撤却セシムル等ノトモ亦之アルヘシ火災アリテ後始テ之ヲ設クヘシト云ニ非ス是亦全府ノ安寧ニ關スルヲ

以テ其費用ヲ全府ニ課スルハ當然ト云ハンノミ

○二十七番楠本正隆

本按ノ事件ニ就テハ本官曾テ關係スル所アリシカ

今大ニ其是ナルヲ覺フ請フ之ヲ述ン夫レ東京府ハ實際他ノ府縣ト異ナリ事業モ多ク其費用隨テ大ナリ然ルニ今日ニ至ル迄之ヲ他府縣ト同視シ營業雜種兩稅ノ制限ノ如キモ亦毫モ區別ナシ豈不備ノ法律ナラスヤ原來法ヲ立テ後ニ府縣ヲ興スニ非ス府縣アツテ後其法ヲ制スルモノナリ宜ク之ニ適スルノ法律ヲ制定シ以テ之ヲ保護セサルヘカラス本按ノ如キハ善ク此意ニ適スルヲ以テ一モ間然スヘキナシ論者或ハ云ン特ニ東京府ノミ之ヲ許スハ不可ナリト是レ其一ヲ知テ未タ其二ヲ知ラサルノ說ナリ其制限ト雖モ單ニ一地方官ニ任スルニアラス之ヲ府會ノ決議ニ委ス且一般ノ法律ニ據レハ

最上點ハ十五圓ト制限スルヲ以テ若シ其以上ヲ徵稅ス可キモノアルモ其範圍外ニ出ル能ハサレハ自ラ重ク貧人ニ課セサルヲ得サルニ至ル是レ勢ヒノ止ムヲ得サルモノナリ加之本府ノ議員ハ他ノ地方ニ反シ商民ヲ多シトス故ニ之ニ制限ナキモ重ク商ニ課稅スルカ如キノ顧慮ヲ要セサルナリ況ヤ上陳スル如キ他府縣ト殊別セサル可ラサルニ於テヲヤ故ニ曰ク本按ハ可ナリト

○八番細川潤次郎 内閣委員ニ問フ第三第四兩條ノ事ハ第一條ニ依リ十五區六郡トヲ分別シタル上ニ之ヲ爲スカ將タ地方稅ト爲スコニ決セハ共ニ之ヲ課スルヤ
○外渡邊洪基 府會ニテハ瓦斯燈費火災豫防費等ヲ連帶シテ論スルコ有ルヘケレハ之ヲ地方稅ト爲ス以上ハ一般ニ課スルモ亦知ル可

ラスト雖モ順序ハ第一條ノコヲ決シテ後ニ第三四條ニ及フヘキモノナリ

○八番細川潤次郎 瓦斯燈及火災豫防費ハ區ヨリ之ヲ出シ郡ヨリ之ヲ出サスト云ヘハ稍其理アルカ如シト雖モ郡區齊ク之ヲ課スヘシトセハ其不理亦甚シ本官ハ第一條ハ之ヲ存シ他ハ皆刪除スルヲ可トス今其理由ヲ略陳センニ第二條ノ東京府ノ營業稅雜種稅ハ制限ニ拘ラスニ云々トアル是レ甚タ不可ナリ夫レ制限ノナカル可ラサルハ向日地方官會議接ヲ議スルニ方リ本官等反復之ヲ論シ當時既ニ解ク可ラサルニ決セリ之ヲ解クハ固ヨリ理事者ニ便ナルヘキモ既ニ稅ト云ハ、制限ハ必ス設ケサル可ラス故ニ戶數割ヲ除クノ外ハ國稅ヲ始メ都テ制限アリ若シ之ヲ不可トセハ地租五分一ノ制限モ併セ

テ解除セサル可ラス況ヤ東京府ノミ之ヲ解クハ太々不可ナルニ於
テヲヤ今之ヲ歐米諸邦ニ徵スルモ此ノ如キ特殊ノ法律アルハ本官
未タ曾テ聞カサル所ナリ縱令東京府ハ富者多シトスルモ貧富ノ均
シカラサルハ各地皆然リ何ソ特ニ東京府ノミニ限ランヤ然ルニ一
地方ニ限リ特別ノ法ヲ施サントスルハ畢竟之ヲ存セハ其區域外ニ
脱出スル能ハス故ニ不便ナリト云ニ過ス是レ猶噎ニ因テ食ヲ廢シ
蹶ニ因テ歩ヲ廢スルト同シ若シ十五圓ニテ眞ニ足ラストセハ之ヲ
二十圓或ハ二十五圓ト爲スモ寧ロ不可ナシトス夫レ東京府ノ如キ
ハ議員モ賢ナルヘク知事モ賢ナルヘシト雖モ特ニ東京府會ノミニ
之ヲ許シ他ノ議會ニハ之ヲ允サ、レハ東京府ノ議員ハ信スヘキモ
他ノ議員ハ一切信スル能ハストシ宛モ信用ノ分量ニ等差ヲ立ツル

カ如シ此ノ如キノ理ハ萬々アルコナシ第三第四兩條モ亦不可ナリ
府會ノ決議ニテ六郡ニ其費用ヲ課スルコハ蓋シ之レアル可ラスト
雖モ若シ之ヲ課スルアラハ第一條ノ如ク郡區ヲ分別スルヲ要セス
瓦斯燈費ノ如キハ田舎ニハ之ヲ課セスト定メハ十五區内ト雖モ片
隅ノ地ハ亦田舎ト異ナルナキニ依リ之ニモ課税スルハ不當ナリ又
東京ハ日本ノ首府ナルカ爲メニ外國ニ對シテモ此設ケナカル可ラ
ストセハ寧ロ國税ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ瓦斯燈ノ爲メニ京橋地方
ハ貨物販賣ノ收額多ク警察モ能ク周到ストセハ山ノ手ハ宛モ其反
對ヲ以テ賊多ク貨物ノ販賣其額減少スヘシ故ニ山ノ手ノ人民ハ皆
ニ其費用ノ支辨ヲ嫌フノミナラス或ハ其損害ノ賠償ヲ請求スルニ
至ルモ知ル可ラス此等ノ理由ヲ以テ此三ヶ條ハ渾テ之ヲ不可トス

ルナリ
 ○一番玉乃 本官ハ八番ト全ク其所見ヲ異ニス夫レ營業稅雜種稅ノ
 制限ヲ解カサルノ原由ハ一ナラスト雖モ一般府縣會議員ハ農民ヨ
 リ出ルモノ多キヲ以テ商賈ニ偏重ナル稅ヲ課スルノ恐レナシトセ
 ス東京府ノ如キハ之ニ反シ其議員ハ密ニ商ニ出ル者多シ且均ク商
 估ナルモ三井大丸等ノ如キモノアレハ亦貧困ナル豆腐屋燒芋屋等
 フリ而シテ其稅ヲ出スマ甚タ差異ナキカ如キハ必竟十五圓以内ノ
 制限アルニ因ル故ニ本府ニ在テハ其制限ヲ解カサル可ラサルノ理
 顯然タリ又東京府下ハ卸賣ヲ爲スノ地ニシテ田舎ハ小賣ヲ爲スノ
 所ナレハ巨商豪富ノ東京府下ニ多クシテ他府縣ニ少キハ自然ノ勢
 ナリ此ノ如ク事實差異アル以上ハ其課稅モ亦殊異ナラサル能ハス

若シ徹頭徹尾制限ハ均一ナラサル可ラストセハ寧ロ各地方ノ制限
 ヲ解クニ如カス本按ハ毫モ間然スヘキモノナシトス
 ○議長 發議未タ盡サレト時既ニ午ヲ過ルヲ以テ暫ク本會ヲ中止シ
 午餐後續會ヲ開ク可シ散會セヨ
 午後零時第十一分開場
 午後零時第五十一分開場
 退席 十七番 秋月 種樹
 ○議長 午前引續ノ會ヲ開ク
 ○外渡邊 洪基 八番ノ制限ナカル可ラスト云フハ入ルヲ量テ出スヲ
 爲スノ精神ヨリ出テ甚タ可ナルカ如キモ議會ニ決スルモノハ敢テ

之ニ關係セサルナリ何トナレハ地方税ハ猶協議費ノ如シ故ニ自家其制限ヲ設ケテ可ナリ法律ヲ以テ定ムヘキモノニ非ス或ハ云シ那ノ一般普通ノ制限ハ何ノ爲メニ之ヲ設ルヤト然レモ是レ只大體ノ照準ナリ他ノ地方ハ未タ之ヲ解クヲ要セサルモ東京府ハ獨リ之ヲ要スルヲ奈何セン又云フモノアラン其適度ヲ量テ其制限ヲ大ニスルヲ可トスト縦ヒ其適度ヲ量ルモ其目的ナキハ即チ一ナリ又八番ハ歐洲諸邦ニハ制限アリト云フモ是レ我地租五分一ナル制限ノ如キ活動セサルモノニハ非サルナリ瓦斯燈火災豫防ノ必須ナルハ既ニ詳細辯明シタルヲ以テ今之ヲ贅セス

○二十四番山口 尚芳 本按第一條ハ現況既ニ此順序ナルヲ以テ之ヲ可トス第二條ハ本按中特ニ緊要至大ノ點ナリ之ニ就テ目下二個ノ説ア

レトモ本官ハ皆其所見ヲ異ニス蓋シ本按ノ不可ナルハ議會ノ自由ニ任スルニ在リ夫レ一國ノ政ヲ爲ス者ハ其國民ノ幸福ト災害ト須臾モ之ヲ忘ル可ラス然ルニ此等ノ事件ヲ擧テ全ク議會ニ委セハ民必ス曰ン我カ政府ハ其職ヲ拋擲シタリト夫ノ亞米利加合衆國ノ如キハ之ヲ議會ニ任スルト雖モ是レ其基ク所アツテ然ルナリ何トナレハ該國ノ如キハ當初英國等ヨリ二三同志輩相携ヘテ此ニ投合シ漸ヲ追テ一村一部ヲ爲シ遂ニ國ヲ建テ、目今ノ隆盛ニ至ルモノナリ是今日其制限ヲ議會ニ委スル所以ノ原因ナリ本邦ノ如キ若シ之ヲ議會ニ委セハ政府ノ職務ハ何ヲ以テ立ツヲ得ンヤ或論者ハ其制限ハ現行法律ニ從ハサル可ラスト云フモ原來其制限ハ全國一般同一ナラシムルノ理ナシ例ヘハ日本全國ノ府縣ヲシテ各之ヲ二國ト

見ンニ民俗地勢悉ク是レ殊ナリ然ルニ營業稅雜種稅ノ制限ハ全國一般同趣ナラシメントスルハ豈謬マラスヤ又民人ノ東京府下ニ輻湊スル所以ハ是全國ノ首府ニシテ其要衝便利他ニ比類ナキニ由ルナリ然ルニ之ヲ他ノ不利不便ナル寒鄉邊土ト同一視セントスル其不理タル又太甚タシ故ニ本官ハ東京府ノ營業雜種兩稅ノ制限ハ府會ノ決議ヲ經テ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ得テ之ヲ他府縣ト殊ニスヘキノ修正說アリ論者或ハ云ン然ラハ京阪兩府モ亦別ニ其制限ヲ定メサル可ラスト夫レ然ラン然レモ彼等ハ未タ此ノ如ク他ト區別スルヲ要セサルカ如シ且各地其宜キヲ殊ニスルヲ以テ之ヲ其地ノ議會ニ委セハ其人民ニ密接ナルヲ以テ自ラ其程度ヲ誤ラサルヘシ而シテ其議定スル所ニ因リ政府之ヲ判定シ其可否ヲ決

セハ益々其當ヲ得ヘシ或ハ云ン毎歲此ノ如クセハ其煩雜ニ堪ヘサルヘシト本官ハ必スシモ毎歲之ヲ爲スヲ要セス今年ノ決定果シテ支障ナクンハ延テ之ヲ數年間ニ適用スルモ可ナリトス何トナレハ今年ノ一明年必ス變更スヘキノ非ス首府ニ於ル貿易ノ如キハ最モ然リトス故ニ本官ハ次會ヲ俟テ前陳セシ主趣ニ基キ修正說ヲ提出セントスルナリ又第三第四兩條ノ可否ヲ斷スルハ頗ル困難ナルモノアリ何トナレハ八番モ論スル如ク瓦斯燈ト云ヒ火災豫防ト云ヒ之ヲ府會ノ議決ニ委セハ若シ彼ニ在テ之ヲ不可トセハ其費ヲ課スルヲ得ス然レモ瓦斯燈ハ本府ニ在テ欠ク可ラサルモノナレハ其精神ニ因テ法ヲ立テサル可ラス火災豫防ト雖モ亦然リ此ノ如キハ人民各自ニ之ヲ負擔ス可キモノトセハ目今ノ如キ警察官ノ注意セ充

贅ト云フヘシ起草者ノ主趣果シテ何處ニアルヤ本按ノ如キハ曖昧
 模稜ナリト云ンノミ故ニ之ヲ修正スルニ非サレハ不可ナリトス人
 ○二十九番柴原和 本按ヲ可トス第一條ハ本按ノ綱領ニシテ毫モ不可
 ナシ又制限ハ一番モ論スル如ク各地方固ヨリ同一ナラサルヲ以テ
 地方官會議按ヲ議スルノ時ヨリ本官等既ニ其解クヘキヲ論セリ今
 本府ニ限り郡區ノ經濟ヲ分別スルノ可ナルハ猶本府ニ限り其制限
 ヲ解クノ可ナルト何ソ擇ン既ニ東京府ニ於テ此法ヲ設ケハ漸次各
 地方ニ派及シ數年ヲ出スシテ一般制限ヲ解クノ好結果ヲ得ヘシ又
 瓦斯燈費ノ如キ從前ハ共有費ヲ以テ辨シ更ニ府稅ニテ之ヲ維持ス
 ルニ至レリト聞ク蓋シ府稅ハ今ノ所謂地方稅ナレハ之ヲ全府ニ賦
 課スルハ適當ト云フヘシ又火災ハ本府ニ在テハ人民ノ最モ慎恐シ

之カ豫防ヲ爲サ、ル可ラサルモノナレハ此設ケハ必ス無ル可ラス
 此ノ如キノコト雖モ獨リ府知事ノ意匠ニ任シ之ヲ人民ニ課セハ或
 ハ弊害アルヘシト雖モ本按ハ乃チ之ヲ府會ノ決議ニ委スルニ在レ
 ハ毫モ間然ス可キナシ
 ○外番 一番渡邊洪基 或議官ハ制限ハ議會ニテ豫定シ政府ノ認可ヲ經テ之
 ヲ確定ス可シト云ト雖モ議按ヲ以テ政府ノ認可ヲ請フノ例ハ本官
 ノ未タ曾テ見聞セサル所ナリ又之ヲ議會ニ委ネハ賦課ノ金額ハ其
 底止スル所ヲ知ラスト云ヘルカ如シト雖モ決議ノ事件ハ皆悉ク政
 府ノ認可ヲ經テ之ヲ施行スヘキモノオレハ若シ其決議當ヲ得サル
 モノトセハ政府ハ之ヲ認可セサルヤ必セリ故ニ之ヲ議會ニ委スル
 ○モ決シテ彼ノ如キ顧慮ヲ要セストス

○二十七番楠木正隆

前説ノ不足ヲ補充セン瓦斯燈ノ如キハ現ニ區ニ限
レリ蓋シ其他郡ニ無クシテ區ニ在ルモノ往々少ナシトセス是レ必
竟郡區其經濟ヲ分別スル所以ニシテ此事タル本府ニ在テ特ニ要用
ナルモノナレハナリ故ニ實際ニ於テハ既ニ之ヲ分別シ來ルト雖モ
只其法律ニ之ヲ明掲セザレハ不都合ナルヲ以テ今此案ヲ頒布スル
ハ頗ル肝要ト云フヘシ又制限アレハ之ヲ超加スルノ憂ヘナシト云
モ理事者ハ往々其最上額ニ至ル迄之ヲ徵收シ動モスレハ苛酷ニ至
ルノ弊アリ加之十五圓ノ最上額ヲ以テ他ト同ク三井大丸等ノ巨商
ニ及ホスハ頗ル其公平ヲ失セリ原來貧富ニ適應シ公平ニ地方稅ヲ
課稅スルハ至難中ノ最至難ナルモノニテ寧ロ無制限ト爲スノ勝レ
ルニ如カス或論者ハ議會ノ決議ヲ經テ政府ノ認可ヲ請フ可シト云

ト雖モ此ノ如キハ數次議會ヲ開設セサルヲ得ス又瓦斯燈ノ如キハ
其費額大約五十萬圓ニ上ルト聞ク豈協議費ノ能ク支辨スルヲ得ル
所ナランヤ故ニ客年ハ地方稅ニテ之ヲ支辨セリ彼此以テ本按ハ毫
モ異議ノ容ルヘキ所ナシトス

○一番玉乃世履

前説ノ不足ヲ補フカ爲メ再ヒ各位ノ聽ヲ煩ハサシ夫レ
豆腐屋燒芋屋ノ貧ト三井大丸ノ富トヲ比較セハ其差霄壤モ啻ナラ
ズ然レトモ稅ニ制限アル以上ハ三井大丸ノ如キモ僅ニ其極點ナル
十五圓ヲ賦課スルニ過キス甲ノ富者ニ過少ナルハ乙ノ貧者ニ過重
ナルノ原ナリ故ニ制限ヲ解キ之ヲ府會ニ委シ其公議ニ決セハ公平
ヲ得ルヤ疑ヒナシ原來貧者ハ論ヲ竣タス富者ト雖モ金錢ヲ出スハ
均ク其少キヲ欲スルハ常情ナリ故ニ會議ニ方リ各自其意ヲ主張シ

若干ノ金額ヲ要スルニ決セハ先ツ其賦課スヘキ人員ヲ定メ仍ホ其額ヲ擧ルニ不足セハ更ニ之ヲ何人ニカ賦課セサル可ラス乃チ各個純益金ノ分ニ應シ復タ賦課金ノ額ヲ加ヘ以テ之ヲ得ルニ至ル是ニ於テカ無制限ハ却テ適當ナル課税ノ基トナルヘシ或論者ハ制限ヲ解カハ往々多収スルノ恐レアリト云ヘル既ニ十二費目アル以上ハ決シテ此ノ如キ顧慮ヲ要セサルナリ

○九番神田孝平 郡區ノ分別ヲ允スハ至當ノコナリ之ヲ府會ノ決議ニ委スルハ妥當ナラス何トナレハ郡ノ議員ハ之ヲ區ニ比スレハ其人員寡少ナルヲ以テ分別ノ便利ハ動モスレハ區ノ一方ニ偏スルノ恐レアレハナリ故ニ府會ニ倚ラス之ヲ分別シテ可ナリ又府會ハ地方税徵收等ノ分別ヲ議スルモノトセハ府會議員モ亦分々サル可ラス否

ヲサレハ郡區俱ニ大連合會ヲ爲サ、ルヲ得サルナリ第二條ハ異論ナシ第三四條ハ修正スヘシ瓦斯燈火災豫防共ニ必用ナラサルニ非スト雖モ亦他ニ之ヲ維持スルノ方法アルアリ本按ノ如クハ寧口削除スルニ如カス

○議長 發議盡タリト認ムルヲ以テ第一讀會ハ此ニ畢ル

○外一番渡邊洪基 本按ハ急施ヲ要スルヲ以テ引續キ第二讀會ヲ開カレシコトヲ請フ

○議長 內閣委員ノ請求ニ同意ノ者ハ起立スヘシ
起立者ナシ

○議長 委員ノ請求ハ同意者ナキヲ以テ之ヲ廢棄シ追テ第二讀會ヲ開ク可シ散會セヨ

- 十五番 大給 恒
- 十七番 秋月 種樹
- 十八番 東久世通禧
- 十九番 津田 出
- 廿一番 河瀬 眞孝
- 廿四番 山口 尙芳
- 廿五番 河田 景與
- 廿六番 伊丹 重賢
- 廿七番 楠本 正隆
- 廿八番 安場 保和
- 廿九番 柴原 和

○午前第十時十分開場
 ○議長 本日ハ議長不参ニ由リ本官代理ヲ爲シ第百八十號議按第二

○議長 本按ニ同意ノ者ハ起立スヘシ
 ○議長 起立者十七人
 ○議長 多數ナルニ由リ本按ニ決ス

○議長 本按ニ同意ノ者ハ起立スヘシ
 ○議長 起立者十七人
 ○議長 多數ナルニ由リ本按ニ決ス

東京府地方税取扱方左ノ通被定候條此旨布告候事

○議長 本按ニ同意ノ者ハ起立スヘシ
 ○議長 起立者十七人
 ○議長 多數ナルニ由リ本按ニ決ス

○議長 本按ニ同意ノ者ハ起立スヘシ
 ○議長 起立者十七人
 ○議長 多數ナルニ由リ本按ニ決ス

第一條 東京府ハ府會ノ決議ヲ以テ其十五區ト六郡ト地方稅徵收

並支出ヲ分別スルヲ得

○九番 神田 孝平 本官ハ府會ノ決議ヲ以テノ八字ヲ削除セントス其理由

ハ郡區ヲ分別スルハ本按ノ主腦ナリ而シテ之ヲ府會ニ委スル時ハ
自ラ郡ハ區ノ壓抑ヲ受ルニ至ルヘクシテ此分別ハ到底有害無益ニ
歸スヘケレハナリ

○十八番 東久世 通禎 賛成

○十三番 楠田 英世 賛成ス抑々本條ハ下ノ三個條ニ活動ヲ與フルモノニ

シテ府會云々ノ一ハ最モ其要點ナリト雖也我國議會ノ開設日未タ
深カラサルヲ以テ郡區ノ經濟ヲ分別スルハ敢テ府會ノ議決ニ任セ
ス府知事ノ意匠ニ委スルヲ以テ寧ロ當ヲ得ルモノトス

○議長 九番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外一番 渡邊 洪基 若シ九番ノ說ノ如クセハ勢ヒ東京府内ニ於テ十五區

會ト六郡會ト別個ニ開設セサル可ラス然ルニ之ヲ設ルハ太々不可
ナリ何トナレハ十五區ハ中央ニ在リ六郡ハ其周圍ニ在ルヲ以テ甲
乙經濟ノ脈絡ヲ通スルノ要旨ニ違フヲ以テナリ是レ九番ノ說ノ行
フ可ラサル理由ナリ其區ノ郡ヲ壓スルト云フ如キノ顧慮ハ畢竟杞
憂ト云フヘキノミ

○九番 神田 孝平 内閣委員ノ辯明ハ府會云々ノ八字ヲ刪レハ爲メニ二個

ノ會ヲ興起セサル可ラスト云ノ理由ヲ盡サス本官ハ今之ヲ分別セ
ハ區ハ區郡ハ郡ノミニテ決ヲ取ルヲ猶小會議ノ如クスヘシト云ナ
リ此ノ如クセハ其八字ヲ刪ルモ毫モ妨ケナカラシ

○二十四番山口

尙芳

六

九番ヲ賛成ス蓋シ一昨年府縣會ヲ興起スル時ニ當
 リ地方税ノ徵收支出ハ郡區其殊別ヲ要セスト推考セシニ爾後之ヲ
 分別セサレハ可ナラサルヲ以テ實際既ニ之ヲ分別シテ施行セリ本
 按ノ創定アル亦之ニ因ルナルヘシ原來會議々按ハ地方官之ヲ出シ
 議會之ヲ議スルモノナリ然ルニ本按ノ如ク府會ノ決議云々トアレ
 ハ郡ノ議員ハ區ニ比スレハ其人員寡少ナルヲ以テ每會或ハ區ノ壓
 抑ヲ受ルニ至ルノ恐レアリ故ニ此ノ如キ文字ハ務メテ法律ニ掲ケ
 サルヲ要ス内閣委員ハ修正說ノ如クセハ郡區二個ノ會議ヲ開カサ
 ル可ラスト云ト雖已ニ其議按ハ府知事カ公平ノ心ヲ以テ之ヲ作
 リ府會ノ議定ニ附スルモノナレハ其議若シ當ラサレハ府知事ハ之
 ヲ認可セサルノ權アリ故ニ敢テ妨ケナシトス萬一府知事ニシテ不

公平ナル事ヲ爲スニ至ラハ唯内務卿ノ裁定ヲ乞フニ止マルヘキノ
 ミ暫ク一步ヲ讓リ第一條ヲ原按ノ如ク可決セハ第三第四條ハ忽チ
 其不是ナルヲ知ルヘシ即チ瓦斯燈費ノ如キモ誤テ郡村ニ課スルナ
 ギヲ保セス何トナレハ區ノ議員タレハ之ヲ郡ニ課スヘシト云フモ
 ノ多キニ於テハ郡ノ議員ハ如何ニ其不可ヲ辯スルモ其員少數ナル
 ヲ以テ勢ヒ抑壓スル所ト爲ルヤ得テ疑フヘカラサレハナリ是レ目
 下修正說ノ可ナル所以ナリ

○外一番洪基

渡邊

東京府會ハ十五區ト六郡トノ徵收并支出ノ方法ヲ議
 定スルモノナレハ之ニ二様ノ議按ヲ下附スルヲ得ス然ラハ二個ノ
 會ヲ開ク可ラサルハ論ヲ竣ヌ本按ノ如キハ郡區兩便ヲ計ルノ法ナ
 リ府知事ハ議按ヲ出スニ其一ハ區ノ爲メニシ其二ハ郡ノ爲メニス

ル如キハ勢ヒ之ヲ爲ス能ハス郡區ノ分別ト云モ必竟兩便ノ方法ノ
ミ他ニ法アルニ非サルナリ

○二十九番 柴原和 本按ハ毫モ間然スヘキ無シ若シ府會云々ノ八字ヲ

刪ラハ府會ノ權限ヲ狹窄シ本按ノ精神ヲ拔去スルト亦何ソ異ナラ
シ何トナレハ之ナクハ府知事ノ意匠ニ依リ彼ハ區此ハ郡ノ分ト甲
乙定斷スルヲ得ヘケレハナリ仍テ修正說ハ甚々之ヲ不可トス

○二十四番 山口尚芳 二十九番ハ府會ノ決議云々ノ八字ヲ刪除セハ本按

ノ精神ヲ拔去スルニ異ナルナシト云フト雖モ本官ハ然ラサレハ法
理ニ背戾スルヲ以テ之ヲ刪ラント欲スルナリ何トナレハ區ト郡ト
ハ固ヨリ利害ノ相同シカラサルモノナリ然ルニ其地方稅ノ徵收支
出ヲ府會ノ決議ニ委セハ郡ノ議員ノ數ハ之ヲ區ニ比セハ僅ニ三分

一ナルヲ以テ議事果シテ能ク公平ヲ得ヘキカ郡民ハ必ス之ヲ疑ハ

シ本官等ト雖モ實ニ其難キヲ恐ル、ナリ從前ノ如キハ唯協議上假

ニ施行スル所ナルヲ以テ稍恕スヘキモ苟モ之カ法律ヲ制定スルニ

於テハ此ノ如キ不完全ナルモノヲ以テ足レリト言フヘカラサルナ

○二十八番 安場保和 二十九番ノ說ノ如シ聞ク郡ト區トハ前年既ニ之ヲ

分別シ毫モ支障ナカリシト其レ誠ニ然ラン苟モ府會議員タルモノ

ニシテ諺ニ己カ田ヘ水ヲ引クカ如キ私論ハ得テ爲ス可ク若シ之

アラハ府知事ノ認可セサルハ論ヲ俟サルナリ今府會ノ決議云々ノ

八字ヲ刪レハ本按ノ精神ヲ害ス仍テ之ヲ不可トス

○十三番 補田英世 修正說ヲ可トス夫レ東京府ハ其十五區ヲ同一視スル

○モ猶且之ヲ不公平ト云フヘシ佛國巴里府ノ如キハ其幅員三里許ニシテ其住民ハ大約百八十萬人アリ而シテ各自皆其共同義務ニ堪ヘサルヲカシ我東京府ハ彼ニ比セハ管内ノ幅員廣濶ナリト雖モ其繁寥霄壤ノ差アリテ人民中亦貧者多ク特ニ所謂朱引内ト稱スル所ニシテ猶且桑茶ノ播植ニ委シタル地アリ然ルニ彼此同ク其義務ヲ負擔セシメントスルハ解セサルノ甚シキモノナリ若シ巴里府ニアラシメハ彼是其義務ヲ同フセサルヤ知ルヘシ既ニ義務ヲ同フセサレハ其同フセサルトヲ議ス可ラサルヤ明クシ然ルヲ特ニ其十五區内ニ止ラス其六郡迄ノ事件ヲ合シテ一府會ニ付シ之ヲ議決セシムルハ必竟東京府ヲ以テ全府悉ク繁熱殷富ナリト思量スルニ座スルカ
ルヘシ然レモ今之ヲ論スルモ益ナシ唯願クハ府會ノ決議云々ノ

八字ヲ刪リ他日ノ支障ナキヲ期セントスルノミ
○外一番渡邊 十三番ハ佛國ノ制ヲ引証シテ府會云々ノ八字ヲ削除スヘシト論スレモ本員嘗テ外邦ニ在テ見聞スル所ニ據レハ澳國ノ如キハ確然其會議ノ分別アルニ非ス英國ニ於ケルモ亦然リ此ニ我東京府ハ目下區町村三個ノ名稱區別アリ之ニ據テ之ヲ分別スルハ全府負擔スヘキ義務モ亦之ヲ三様ニ分タサル可ラス之ヲ分ツハ皆ニ困難ナルノミナラス到底爲シ能ハサルトナリ既ニ爲シ能ハサル以上ハ郡區ヲ分別シ府會ノ議決ヲ以テ地方稅徵收ノ方法ヲ定メシムルハ其中庸ヲ得タルモノニアラスヤ
○九番神田 本官ノ修正說ニ對シ種々駁撃アルモ必竟其論タル之ニ從ヘハ忽チ府會ヲ二分セサル可ラスト云フニ外ナラス是本按ノ誤

解ヨリ生シタル論ニシテ其十五區ト六郡ト地方稅徵收並支出ヲ分
 別スルコトヲ得トアルハ府會云々ノ八字ナクモ必ス郡區ヲ分別ス可
 シト云ニ非ス但其分ツベキアレハ之ヲ別テ可ナリト爲スノミ故ニ
 後來總テ分別スヘキモノトセハ今縱ヒ之ヲ刪ラサルモ之ヲ除クト
 何ソ異ナラシ論者或ハ云フ之ヲ刪レハ知事擅行スト苟モ府會アル
 以上ハ此事決シテ能ハサルナリ何トナレハ夫ノ會議按ハ彼此厚薄
 ナキハ其本色トスヘキヲ以テ苟モ東京府ノ長官トシテ豈其此ノ如
 キ偏頗ノ議按ヲ草スヘケンヤ且ヤ之ヲ府會ノ議ニ付スルト否トハ
 職トシテ府知事ノ爲スヘキコトナレハ初メヨリ法律ヲ以テ之ヲ府會
 ノ決議云々ト定ムル如キハ甚ダ妥帖ナラス而シテ今之ヲ刪ルモ府
 知事カ其府會ノ議決ニ附セントセハ之ヲ爲ヌハ容易ナリ然ラハ之

ヲ刪ルハ公平ナルモ之ヲ存シテ獨リ府會ノ決議ニ委スル所ハ郡ノ
 議員ハ其數區ニ如カサルヲ以テ動モスレハ其議區ノ利便ニ傾クノ
 恐レアリ何ヲ顧慮シテカ之ヲ存セント云フヤ

○四番津田眞道九番ノ削除說ヲ可トス抑ク一府中區ト郡トヲ分別シタ

ルハ頗ル奇怪ナルコトニシテ之ヲ大ニセハ猶日本全國ヲ二分シ國稅
 ノ徵收方法ヲ殊別スヘシト云スカ如シ是恰モ往時關東ト關西トヲ
 分別シタル北條ノ政略ニ類シ今日ニ在テハ其不可ナルコト辯ヲ竣カ
 ス而シテ今此ニ東京府ノ其郡區ヲ分別セントスルハ彼此其利害ヲ
 異ニスルヲ以テナリ然ラハ寧ロ其所轄ハ其十五區ニ止マリ其六郡
 ハ他縣ヘ合併セシムルヲ可トス然レモ目下之ヲ論スヘキニ非レハ
 唯其不完全ナル構成ニ從ヒ之ヲ維持スルノ法ヲ議スルヲ要トスト

雖在府會云々ノ八字ヲ削ラサレハ全ク其利ヲ收ムル能ハス聞ク前
 年ハ之ヲ分別シタリト其レ然ラハ其議員モ既ニ實際ヲ知テ之ヲ諾
 領セシモノナルヘシ夫レ事物ノ幼稚ナル時不道德ノ道盛シニシテ
 其開化ニ進歩スルニ從ヒ人々各其權利ヲ主張スルハ自然ノ情勢ナ
 レハ今日ニ方リ依然之ヲ改メサルニ於テハ或ハ恐ル人民ノ之ヲ肯
 セサルヲ故ニ先ツ府會云々ノ八字ヲ削除シ郡區ヲ分別ヲ爲スヲ許
 スハ今日ニ在テ其宜キヲ得タルモノトス（日本全國ニテハ）
 ○外一番渡邊 四番ノ區ノミヲ東京府ノ所轄トシ郡ハ他縣ヘ屬セシ
 ムヘシト云フハ必竟區ト郡トハ其痛痒相關セサルモノト想像シタ
 ルヲ以テナルヘシ然レモ其地勢ニ於テ決シテ境界ヲ立ツ可ラサ
 ルモノタリ又論者ハ動モスレハ府會云々ノ八字ヲ削ラサレハ郡ハ

區ノ壓抑スル所トナルヘシト云ト雖在之ヲ削レハ二個ノ府會ヲ設
 立セサル可ラサルニ至ル此時ニ於テ論者ハ河溝警察衛生費ノ如キ
 ハ如何カ之ヲ處分スルヤ此ノ如キハ決シテ郡區ヲ分別ス可ラサル
 モノタリ昨年ニ於テ之ヲ分別シタリト云フモ唯其賦課ノ額又分
 タルノミ全ク之ヲ分別シタルニ非ス（主として）

○二十七番楠木正隆

向日本院ノ議定ヲ經過セシ地方官會議按中島嶼ハ
 其制ヲ異ニスルヲ許シタルハ必竟他ト其利害又同立セサルノミナ
 ラス其地タル陸上ト相懸隔ズルヲ以テナリ此精神ヲ擴充セハ府會
 云々ノ八字ヲ刪ル可ラサルハ明白ナリ夫レ舊幕府ノ時代ニ在テハ
 今ノ十五區ハ市尹之ヲ管シ六郡ハ郡宰之ヲ治メタルニ因テ其慣習
 ニ從ヒ後來遂ニ郡區ヲ分別セリ原來物アリテ後其法アルハ天下ノ

通義ナリ本按ハ能ク此原則ニ從ヒ大ニ穩當ナル法按ト云フヘシ府會云々ノ八字ハ議會ニ權ヲ與ウルモノナレハ之ヲ削ルハ決シテ宜シカラス

○十三番楠田英世 己ニ論シタル如ク本邦ハ會議ノ構成ヲ誤リタルヲ以

テ現ニ東京府會ニ於ル如キ不都合ヲ生ゼリ原來本條ハ道理上太々不當ナルモノアリ佛國等ニ於テ邑會ニ附スヘキ事件ヲ其州會ニ附スル如キヲ以テナリ是レ其權限ニ抵觸ヲ生スル所以ニシテ亦止ムヲ得サルモノトス然レモ今日ニ在テハ既ニ其本亂レタルヲ以テ其完備ヲ要ムルモ到底其目的ヲ達シ難ク唯一時ノ姑息法ニ據ルノ外ナシ其レ然ラハ九番ノ說ハ寧ロ其當ヲ得タルモノト云ハサルヘカラス

○外番一渡邊洪基 區ト郡トハ原來其組織ヲ異ニスルニ非ス畢竟郡中ヨ

リ區ヲ設ケタルモノナレハ東京府會ハ猶佛國ノ州會ノ如ク彼此相離レサルモノタリ故ニ其間割合ヲ定メテ之ヲ分別スルニ在リ若シ國會アラハ國會ニテ之ヲ爲スヘキモ今其設置ナキヲ以テ中央政府ニ於テ之ヲ分別スルノ必須ナルニ至レルナリ

○議長 討論盡キタルヲ以テ決ヲ取ラン九番ノ修正說ニ同意ノ者ハ起立ス可シ

起立者六人

○議長 少數ナルニ由リ九番ノ修正說ハ消滅ス本日ハ此ニ散會ス可シ

正午閉場

○十三番 補田 英世 本按以下ハ削除スヘシ看ヨ十一年第三十九號布告第九條ニ第一條第二條第三條稅目ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受ク可シトアリ是本按ノ原則ニシテ之ヲ細說スレハ特ニ稅ヲ課スルモ可ナリト云フニアルノミ故ニ本按ヲ設ルハ無用ト云フヘシ想フニ本按ハ右ノ法律ニ據レハ事毎ニ政府ノ裁可ヲ受ケサルヲ得サルニヨリ之ヲ設ケントスルモノナルヘシト雖モ法律ヲ制定スルハ詳カニ其可否ヲ考定シタル上ニ非サレハ不可ナリトス抑々營業稅雜種稅ニ制限ヲ立ルノ日猶淺キニ今日倏然トシテ其制限ヲ破ラントスルハ朝令暮改モ亦甚シ若シ瓦斯燈ハ必要缺クヘカラサルモノトセンカ國稅ヲ以テ之ヲ支辨シテ可ナリ又火災豫防ノ如

キハ爲メニ空地ヲ備置スルノ他ナシ茲ニ土藏築造ノ說ノ如キハ畢竟理論タルニ過キス翻テ實際ヲ顧ミレハ失火ノ際荷物ヲ運入スルニ方リ周章ノ餘誤テ火ヲ庫内ニ入ル、ト往々之レアリ故ニ此ノ如キハ到底無用ニ屬ス可シ以上ノ理由アルヲ以テ本條以下悉ク削除スヘシ

○二十九番 柴原 和 十三番ノ說ハ可ナルニ似タレモ其論說中少ク不明ナルモノアルヲ以テ賛成ヲ表スル能ハス故ニ先ツ之ニ問ントス十三番ハ第二條ヲ削リ之ヲ如何スルノ意ナルヤ

○十三番 補田 英世 議官中相互ニ質問スルノ規則ハ之レナシト雖モ本官ノ說不明ナリトアラハ之ヲ説明セサルヲ得ス爰ニ旨趣ヲ摘論セハ營業稅雜種稅ノ制限ヲ定メタルハ日猶淺シ然ルニ倏然之ヲ壞ルハ

不可ナリ但特別ノ事ハ其都度布令ヲ以テ府會ニ議セシムヘシト云
フニ在ルノミ

○二十九番 柴原和 十三番ノ辯明ヲ聞テ解得セリ第三第四條ヲ削ルハ

十三番ニ同意ナレトモ第二條ノ場合ニ於テ少ク其意見ヲ異ニス因
テ賛成スルコト能ハス

○二十二番 福羽美静 十三番ヲ賛成ス

○議長 十三番ノ削除説ヲ問題ト爲ス

○外一番 渡邊洪基 十三番ノ削除説ハ其意ヲ得ス抑々東京府ノ營業雜種

兩税ノ制限ハ従前ノ如ク存ス可ラサレハ爰ニ本按ヲ要スルハ前會
既ニ之ヲ詳論セシ如シ而シテ府會ヲ開クノ期日今已ニ迫レリ若シ

論者ノ説ノ如ク更ニ布告ヲ爲スニ於テハ尙幾多ノ日子ヲ要スルヤ

知ル可ラス仍テ原按ニ決セラレンコトヲ希望ス

○二十四番 山口尙芳 十三番ノ第二條以下ヲ削除スルノ説ハ頃日本院ニ

テ議定シタル地方官會議按第二十二號ニ地方特別ノ課税ヲ要スル
モノニ云ヤトアルニ起因セシモノナラン果シテ然ラハ其説ハ徹頭徹

尾制限ヲ破ルヲ不可トスルノ主趣ニシテ全ク府會ノ便否得失ニ關
セサルモノ、如シ本官ハ已ニ前會ニモ論シタルカ如ク風俗利害ノ

相殊ナル天下悉ク同一ノ制ニ從ハシムル能ハサルハ理ノ當ニ然ル
ヘキモノナリ故ニ本按ノ如ク其例外法ヲ設ルハ勢ノ止ムヲ得サル

モノナルヲ信ス仍テ十三番ノ説ニ從フ能ハス然レモ本條亦全ク府
縣會規則ニ背馳スルヲ以テ之ヲ修正セサレハ不可ナリトス何トナ

レハ規則ニ據レハ些ヤタル事件ト雖モ皆悉ク政府ノ裁定ヲ經サル

ヘカラス即チ十一年第三十九號布告第三條ニ漁業稅採藻稅ハ云々
 若シ其例規ヲ改正シ又ハ新法ヲ創設セントスルモノハ府縣會ノ決
 議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ云々トアリ其第九
 條ニハ地方特別ノ課稅ヲ要スルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ云々ト
 アル如キ類例多キヲ以テナリ然ルニ今頓ニ營業雜種兩稅ノ制限ヲ
 府會ノ決議ニ全委セハ人將々之ヲ何トカ言フ萬一府會ニ於テ一點
 ノ奸謀アルカ如クンハ其賦課ノ金額ハ之ヲ一錢ノ少キニ下スモ無
 算ノ多キニ上スモ亦知ル可ラス仍テ十三番ノ削除稅消滅セハ本官
 ハ一ノ修正說ヲ提出セントス其文ハ東京府ノ營業稅雜種稅ハ府會
 ノ決議ヲ經テ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ得テ其制限ヲ殊
 ニスルコトヲ得ト云フニ在リ此ノ如クセハ府會ニテ之ヲ議決セシム

ルモ亦政府ノ監督中ニアルヲ以テ決シテ支障ナク實際ノ便益必ス

○其多キヲ信スルナリ

○二番齋藤利行十三番ノ刪除說ハ正論ニ似タレモ同意シ難シ本按ノ如

ク獨リ東京府ニ限り全ク其府會ノ決議ニ委スルハ不可ナリト雖モ
 又以テ之ヲ廢スルニ忍ビサルナリ夫レ事ヲ論スルハ能ク鑒ミテ道
 理ト實際トニ據ラサル可ラス道理上ヨリ之ヲ論セハ府會ノ決議ニ
 全委スルハ制限ノ布告ニ對シ決シテ行フ可ラサルモノナリ又實際
 上ヨリ之ヲ說カハ之ヲ他ノ府縣ニ比セハ縱ヒ貧富ノ別アルモ未ダ
 以テ東京府ノ如キハアラス故ニ本官ハ道理ト實際トヲ折衷シ本府
 ハ他ノ地方ト特別ノ制限ヲ立ルモ妨ケナシトス即チ二十四番ノ說
 ハ其當ヲ得タルモノトス

○一番玉乃

夫レ東京府ニ於テ之カ制限ヲ解カサルヘカラサルノ理
由ハ例ヘハ此ニ拾万圓ノ金額ヲ要シ之ヲ各個ニ賦課センニ三井大
丸ノ如キニハ五十圓乃至六十圓ヲ課スルモ決シテ不公平ナルコトナ
シ然ルニ已ニ税ニ制限アルヲ以テ十五圓ヨリ多ク課スル能ハス爲
メニ徵税法ニヨレハ若干圓ノ不足ヲ生シ之ヲ補フニハ彼ノ戸數割
ニ據ルノ外ナキヲ以テ三井等ノ豪家ニハ終ニ三十圓乃至四十圓ヲ
課スルニ至ルナルヘシ然ハ則チ其名ハ異ナルモ其實既ニ無制限ノ
方法行ハル、ニアラスヤ故ニ寧ロ本按ノ如ク明白ニ無制限ト爲ス
○ノ勝レルニ如カストス

○二十二番福羽
美静

本官ハ朝令暮改ヲ嫌フノ一點ヨリ十三番ニ左袒セ
リ抑々一般地方税ノ制限ヲ以テ府縣會ニ委スルハ妨ケナシト雖モ

○夙ニ聖詔ノアルアリテ其制限ハ業已ニ確定シ且頃ロ本院ニ於テモ

此事數回ノ討論アリテ遂ニ之ヲ存スルニ決シタルナリ然ルニ其數
日ヲ出テスシテ忽チ之ヲ解キ東京府會ニ限り之ヲ委セント云フハ
本官ノ最モ本按ニ不同意ナル所以ナリ且ヤ制限ヲ解クヲ以テ果シ
テ良法ナリトセハ京坂兩府其他ノ地方ト雖モ亦之ヲ許サ、ルヘカ
ラス然ラハ十二費目ノ如キハ上テ十三費目トナリ或ハ十五費目ト
モナラン加之營業稅雜種稅ノ制限ヲ解キ之ヲ多カラシメハ例ヘ三
井大丸等ノ巨商ニハ百圓ヲ課シテ支障ナキモ遂ニハ貧民モ重稅ヲ
免カレサルニ至ルヘシ是レ無制限ノ由テ生スル所ノ弊ナレハ本官
ハ曾テ戸數割ニモ制限ヲ立ント欲スルナリ二十四番ノ修正說ハ一
理アリト雖モ是亦未タ朝令暮改ノ誹謗アルヲ免レサルヲ以テ同意

シ難シトス

○十三番 楠田英世 税ヲ課スルニ制限ヲ立テサルノ國ハ萬國一モ之アル
 ナシ國ニ兵事アルニ當テハ血税ノ如キ無限ノ徵收之レアリト雖
 平時ニ於テ税ニ制限ヲ設ケサル豈其理アラシヤ我政府モ天下ノ通
 義ニ倣ヒ向日之ヲ立テタルニ日未タ久シカラスシテ忽チ之ヲ變ス
 ルハ特ニ朝令暮改ト云フヘキノミナラス理ニ戻ルノ甚シト云フヘ
 シ且既ニ地方税費目ヲ十二下定メタル以上尙之ヲ増殖スルハ不可
 ナラスシテ何ノヤ若シ國用増殖從來ノ税額ヲ以テ支辨スル能ハサ
 ルト云ハ、更ニ會議ヲ開キ其増額ヲ爲ス猶可ナリ否ラサレハ決シ
 テ本條ヲ設クヘカラス

○二十四番 山口尚芳 日本ノ首府ナル東京府ヲシテ他府縣ト同一ノ法ニ

遵ハシメントスルハ實ニ惑ヘルノ甚キモノナリ道路ト云ヒ橋梁ト
 云ヒ地方經濟皆悉ク他ト殊ナルニ非スヤ然ルニ徵税ニ限り彼此相
 同フセントスルモ安ソ得テ支障ナカル可シヤ聞ク東京府ハ客年來
 地方税制限ノ事ニ係リ頗ル困難ヲ極メタリト其レ然ラン本官ハ其
 然ラサルヲ得サルヲ信スルナリ故ニ本按ヲ以テ之ヲ救護スルハ太
 々其當ヲ得タルモノト到底削除説ハ不可ナリ

○一番 玉乃世履 十三番ハ國税ト地方税トヲ混同視シタルモノ、如シ抑
 兵亂ノ時ニ當リ國税ヲ徵收スルハ人民ノ財産ヲ盡スモ亦止ムヲ
 得スト雖他ノ地方税ハ其財産ヲ保護スル爲メニ收ムルモノナリ
 警察費若クハ橋梁費等ノ爲メニ天下ノ人民ヲ率イテ身代限ヲ爲サ
 シムルカ如キノ理ハ萬々之アルコナシ請フ少ク意ヲ茲ニ留メヨ

○十三番楠田英世 本官ノ戰時ヲ引用セシハ稅ニ制限ナカル可ラサルノ理ヲ擴充シタルノミ敢テ警察費等ノ爲メニ民財ヲ盡シテ身代限ヲ爲サシムルモ可ナリト云フニ非サルナリ

○議長 十三番ノ說ニ同意ノ者ハ起立ス可シ
起立者二人

○議長 少數ナルニ由リ十三番ノ說ハ消滅ス

○二十四番山口尚芳 本官ハ既ニ豫言シタル如ク本條ヲ東京府ノ營業稅雜種稅ハ府會ノ決議ヲ經テ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ得テ其制限ヲ殊ニスルヲ得ト修正セントス抑々本按ハ時ノ宜キヲ制スルモノナリト雖モ又之カ爲ニ萬一人民ノ大不幸ニ墮落スル如キ結果ナキヲ保セサレハ政府ハ之ヲ救護スルノ道ナカルヘカラス

原按ノ如キハ府會ハ其權理ヲ皇張シ三井大丸等ニ或ハ數萬圓ノ課稅ヲ命スルニ至ルモ政府ハ之ヲ如何トモスル能ハス既ニ府縣會規則第五條ニ凡ソ地方稅ヲ以テ施行スヘキ事件ハ云々若シ府知事縣令其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スル時ハ云々トアリ縱ヒ制限アルモ猶此ノ如ク萬一ヲ顧慮セサル可ラス且ヤ之ヲ此ニ許セハ京阪兩府ト雖モ亦許サル可ラサルニ至ラン仍テ本官修正ノ如クセハ其憂モ亦ナカルヘシト信ス

○二番齋藤利行 賛成

○二十六番伊丹重賢 本官ハ常ニ營業稅雜種稅ニ制限アルヲ嫌フ然レモ東京府ノミ全ク之ヲ解キ其府會ニ委スルハ亦不公平ナリトセシニ二十四番ノ修正說其宜ヲ得タルヲ以テ之ヲ賛成ス

○議長 二十四番ノ修正説ヲ問題ト爲ス時已ニ午ヲ過クルヲ以テ暫ク議ヲ此ニ止メ午餐後再ヒ開議ス可シ散會セヨ

○二十午後第零時六分開場

○二十午後第一時八分開場

○議長 午後第一時八分開場ニ至リテ

○議長 同 岩下 地方平

○議長 同 渡邊

○議長 午前ノ續會ヲ開ク

○二十七番 楠木正隆 午前問題トナリタル二十四番ノ説ハ不可ナリ若シ此ノ如クセハ年内二次ノ府會ヲ開カサルヲ得ス其故ハ第一ニ地方

官ノ意見書ヲ造爲シテ府會ヲ開キ議定シテ之ヲ具狀シ裁可ヲ得テ

再ヒ府會ヲ開カサル可ラス年内二次ノ會議ヲ開クモ固ヨリ府縣會

規則ニ禁制ナシト雖モ其不便ナルハ論ヲ俟タス又政府ノ裁可ヲ受

ルハ目下修正説ノ精神ナリト雖モ縦モ原按ニ據ルモ不當ノ決議ハ

○知事之ヲ認可セザレハ議會ハ決シテ擅ニ議決ヲ爲スヲ得サルニア

ラスヤ抑々地方税ニ十五圓ノ制限アルハ富者ニ便ニシテ貧者ニ不

便ナルモノナリ何トナレハ上ニハ制限アリテ下之ナキヲ以テナリ

制限ト云ヘハ法律上ニ立派ナル如シト雖モ其實之レカ爲メニ不公

平ヲ招クノ因ト爲ルアリ故ニ本條ノ如クセハ富者ニ薄クシテ貧者

ニ厚キ税額ノ不均ヲ矯正シ實際ノ功益ヲ見ルヲ得ヘシ仍テ原按ニ

○テ不可ナシトス官ハ目下ノ問題ヲ解決スルニ當リ

○十七番種秋月 本官ハ目下ノ問題消滅セハ建議ヲ爲サントス抑々人

民貧富ノ異同アルハ特ニ東京府ニ限ラス然ルニ今此按ヲ布令セン
トスルハ何ソ獨リ本府ノ巨商ノ不幸ニシテ他ノ豪富ノ多幸ナルヤ
然レトモ本府ニ限り斷然他ノ地方ト同一視ス可ラサル理由アルア
ラハ本院ニ於テ特ニ委員ヲ選定シ別ニ其制限ヲ創定スルヲ可トス
仍テ目下ノ問題ニハ同意スル能ハス

○二十九番柴原 原按ノ不可ナキハ二十七番ノ辯明ニテ已ニ餘蘊チ

シト雖モ尙聊カ之ヲ陳シ地方税ノ制限ヲ解クハ今纔カニ東京府ノ
ミト雖モ本官ハ甚々之ヲ可トス縱ヒ府會ノ決議ニ委スルモ之ヲ認
可スルト否トハ府知事ノ權内ニ在ルヲ以テ敢テ憂フルニ足ラス必
竟修正説ハ議員ヲ疑フノ精神ニ出ルモノ、如ク此ノ如キ顧慮ハ決

シテ要セサルナリ又或ハ朝令暮改ノ謗アリト云ト雖モ本按ハ初メ
ヨリ地方官會議按ニ亞テ直ニ發スルノ手續ニ成リタルヲ以テ決シ
テ其憂ナキヲ信スルナリ仍テ本條固ヨリ不可ナシトス

○二十二番福羽美靜 原按ノ不可ナルハ論ヲ埃タスト雖モ二十四番ノ修

正説モ未タ其病アルヲ免レス抑々制限ヲ解クノ論ハ過日來本官等
ノ鑿聞スル所ナリ二十四番ノ説ハ稍之ヲ存スルニ近シト雖モ到底
之ヲ議會ニ任カスニ在ルヲ以テ本官ハ之ニ左袒スル能ハス夫レ制
限ナルモノハ十一年並ニ向日本院會議ニ於テモ其設ケアルヲ可ト
スル者多ク既ニ各地方之ヲ遵守スルニ今日ニ至リ獨リ東京府ノミ
之ヲ解クハ太々不可ナラスヤ然レモ本府ハ特別ナリ實際此ノ如ク
ナラサル可ラストセハ本官ハ十七番建議ノ如ク更ニ全部ノ修正委

員ヲ選定シ精細其調査ヲナサシムルヲ可トス
 ○外一番 渡邊 洪基 到底諸論ノ歸スル所ハ信用ノ點如何ニ在リ本按ニハ
 議會ヲ信シテ之ニ委ストスルモ其議決ヲ認可スルト否トハ固ヨリ
 府知事ノ權ニアルヲ以テ敢テ不可ナシトス又二十四番ハ議會ヲ信
 セスシテ政府ヲ信スルノ精神ナレハ其論旨ハ差違アルモ其之ヲ信
 スルノ點ニ於テハ均ク一ナリ仍テ本員ハ夫ニ二十四番ニ望ム所ア
 リ願クハ府知事ヲ信スルノ心ヲ擴充シテ議會ヲ信セラレシト又
 ○委員ヲ選定シ制限ヲ立ツルヲ論ノ如キハ誤レリ夫レ既ニ制限ヲ立
 ルヲ以テ可決セシハ則チ元老院ノ會議ニシテ今其制限アルカ爲メ
 大ニ支障アルニ非スヤ然ルニ猶再ヒ元老院ニテ其制限ヲ定メシメ
 ハ果シテ能ク其當ヲ得ヘキカ本員ハ議會ニ任スルノ勝レルニ如カ

ストスルナリ

○二十四番山口 尙勞 本官ノ修正說ハ議會ニ任シ猶且政府ニテ其監督ヲ
 爲サシムルノ精神ニシテ即チ人民保護ノ旨趣ナリ或議官ハ本官ノ
 說ノ如クセハ兩度ノ會議ヲ開カサルヲ得スト云ト雖是原按ト異
 ナルナキナリ又制限ハ其高度ニ立ルモ其低度ナキヲ以テ貧民モ爲
 メニ自ラ重稅ヲ課セラレカ故ニ其低額ニモ亦之ヲ設クヘシト云
 ハ、本官或ハ之ニ從フヘキモ之カ爲メ寧口上ノ制限ヲモ併セテ解
 キ擧テ議會ニ全委スヘシト云フニ於テハ決シテ從フヲ得サルナリ
 原來制限ナルモノハ十一年度ニ始メテ之ヲ設ケ當時既ニ本院并ニ
 地方官ニ於テモ之ヲ可決シ今年復然リ然ルヲ今倏然之ヲ解キテ府
 會ニ委スルハ豈輕忽ト云ハサル可ケンヤ即チ本官ノ修正說アル所

以ナリ

○二十七番楠木正隆二十四番ハ任ス。ノ二字ニ係リ大ニ杞憂ヲ抱クト雖

府縣會規則第五條ニ若シ府知事縣令其議決ヲ認可ス可ラスト思慮スル時云々トアリ制限内ト雖地方官ハ已ニ此ノ如ク干涉スルヲ得ルナリ縦ヒ任スト掲載スルトモ何ノ不可カ之アラン蓋シ此ニ所謂任字ハ制限ニ拘ラスト相對シタル語勢ナリ決シテ文字ニ拘泥スヘカラス

○二十四番山口尚芳本按ハ單行律ト見認メタレ正隆暫ク論者ノ言ニ從ヒ

那ノ府縣會規則ニ連帶スルモノトシ任スノ字アルモ妨ケナシトセシニ若シ制限アラハ府知事ハ其原則ニ由リ之ヲ許スト否トヲ識別スヘシト雖正隆萬一之ヲ解カハ其原則ナキヲ以テ之カ厚薄ノ判定ニ

善正隆ヲ知ルヘシ内務卿正隆之ヲ鑒別スルモ亦何ニ依ルヘキヤ看ヨ府

縣會規則ニ議員ノ官ニ告スシテ欠席セル者ハ其公權ヲ停止スルス

○法アリ是レ他ナシ萬一此正隆如キコアラ正隆ヲ顧慮スルガ爲メナリ彼

等正隆ニ然リ本按ニ限正隆何ソ獨リ之ヲ簡慢ニ付ス可シヤ

○二十六番伊丹重賢無制限ハ本官ノ固ヨリ欲スル所ナレ正隆二十四番修

正ノ末文ニ其制限ヲ殊ニスルコトヲ得トアルハ制限ニ拘ラスト云フ

ノ文字ト同一ナルモノト見做シ且他ノ地方ハ未ダ制限ヲ解カサルモ東京府正隆之ヲ解キ正隆府會ニ任スルハ安カラストスルヲ以テ本

○官ハ二十四番ニ左袒セシナリ正隆

○議長正隆討論盡スルヲ以テ決ヲ取正隆過刻十七番等ノ建議アレ正隆二十四番ノ說消滅セハ云々トノ旨趣ナルヲ以テ先ツ二十四番ノ修正說

三同意ノモノハ起立スベシ官制マシキ以テ大ニ二十四番ノ第五

○議長起立者十六人

○議長ニ多數ナルニ由リ二十四番ノ修正ニ決ス

第三條 東京府ハ府會ノ決議ニ從ヒ瓦斯燈費ヲ以テ地方稅費目ノ

○議長六二番 齋藤三十番 鶴田九番 神田二十一番 河瀬十三番 楠田議長

○他ノ公務アテテ退席セリ各員之ヲ了セヨ

○二十二番 福羽 本條ハ删除スベシ夫レ瓦斯燈ハ當初之ヲ興設スル

東京府ノ積金ヲ以テ之ヲ興セシナリ故ニ別段ノ方法ヲ以テ之ヲ人

民ニ議セシメサルハカラス而シテ若シ其承諾ヲ得サルニ於テハ一

時之ヲ廢止スルモ又止ムヲ得サルモノナリ但東京府ハ首府ナルヲ

以テ其設置ナカル可ラストセハ宜ク國稅ヲ以テ之ヲ支辨スベシ之

ヲ地方稅費目中ニ加フルハ不可ナリ

○三十三番 本田 贊成

○議長ニ二十三番ノ削除説ヲ以テ問題ト爲ス

○第一番 渡邊 二十三番ハ當初瓦斯燈ヲ創設シタルハ敢テ府民ニ商

議セシキ非スト云ト雖モ當時ハ所謂府會ノ設置ナケレハ人民ノ總

代タル政府ヲ創設シタルモノハ人民之ニ與ラスト云フノ理ナシ又

昨今ニ在テハ其人民ノ承諾ヲ受ルハ府會ヲ措テ將々何レニカ之ヲ

求メシヤ乃チ承按ノ起ル所以ニシテ既ニ之ヲ其決議ニ委シテ其承

求メシヤ乃チ承按ノ起ル所以ニシテ既ニ之ヲ其決議ニ委シテ其承

求メシヤ乃チ承按ノ起ル所以ニシテ既ニ之ヲ其決議ニ委シテ其承

求メシヤ乃チ承按ノ起ル所以ニシテ既ニ之ヲ其決議ニ委シテ其承

求メシヤ乃チ承按ノ起ル所以ニシテ既ニ之ヲ其決議ニ委シテ其承

求メシヤ乃チ承按ノ起ル所以ニシテ既ニ之ヲ其決議ニ委シテ其承

諸ヲ得サレハ敢テ點燈セザルモ妨ケナシ然レモ東京ノ如キ車馬絡
 繹タル地方ニ於テハ必ズ夜燈ノ設ケザカルベカラズ既ニ之ヲ設ケ
 ハ其費用ノ徵收モ亦ナカル可カラス之ヲ協議費ニセシカ十五區内
 下雖モ其利便均一ナラス故ニ平等ニ配賦スルヲ得ス然ハ則チ該燈
 所在ノ地ニノミ課セシカ決シテ其費ヲ支フルニ足ラス況ヤ之ヲ協
 議費ニ課セハ其設置シタル主義ニ背馳スルヲヤ原來該燈ハ首府ノ
 用ニ供スルカ爲メニシテ敢テ其所在地ノ爲メニシタルニアラサル
 ナリ仍テ之ヲ府會ニ決議ニ委シ第一條ニ依リ或ハ區ノミニ之ヲ課
 以又ハ郡區共ニ之ヲ課スル如キ其選ム所ニ委スルハ豈不可アラシ
 ヲ故ニ本按ハ削ル可ラストスセシテモ東京府ハ首領セハモ
 ○二十九番 柴原和 本官嘗テ東京府吏ニ問フニ瓦斯燈費ノ出所ヲ以テ

セリ彼レ答ヘテ曰フ當初ハ府民ノ共有金ヨリ之ヲ支辨シ爾後府稅
 ヲ以テ支給スト府稅ハ則チ今ノ地方稅ナレハ其費用ハ更ニ十二費
 目ニ加フルモ敢テ妨ケナシトス若シ之ニ反シラ一旦該燈ノ點火ヲ
 止メ更ニ之ヲ點スル如キコアラハ其間忽チ暗夜トナラシ豈不都台
 ナラスヤ且本按ニ決議ニ從ヒノ字アルヲ以テスレハ決シテ二十三
 番ノ論スル如キ顧慮ヲ要セザルナリ
 ○二十二番 福羽美靜 夫レ稅ハ收納者ト徵收者ト互ニ便宜ヲ思量セサル
 可ラス本按ノ如キハ人民ハ從來之ヲ收納セシニ因リ更ニ法ヲ設ケ
 テ復タ之ヲ繼續セシメント爲ルニ在リテ乃チ徵收者ノ便ナリ抑々
 其共有金ヲ以テ支辨シタルモ府稅ヲ以テ支辨シタルモ前日ノ事ハ
 時勢止ムヲ得サルモノナルハ強テ之ヲ論及セスト雖モ今日ニ在テ

府知事ヨリ此議按ラ出スハ最モ不是ナリトス何トナレハ若シ該燈ヲ認メテ必要缺ク可ラストセハ縦ヒ此法律ナキモ府會議員ハ更ニ地方稅ヲ以テ該費ニ充ル等ノ意見書ヲ提出スルノ時機アルヘシト信スレハナリ而シテ官府ハ其時ヲ待テ更ニ之ヲ興スモ敢テ晚カラ

○ストス故ニ本按ハ削除スハ外一番渡邊洪基 二十二番ハ瓦斯燈ハ甲乙共ニ便利ナルモノニアラス故ニ其點火ヲ府民ニ強フヘカラスト云フト雖モ之ヲ點スルハ從來ノ習慣ヨリ來ルモノニシテ那ノ習慣ハ法律ト同一ノ勢力アルモノナリ餘ノ十二費目ト雖モ敢テ人民ヨリ請求セシニアラスシテ全ク政府ニテ定メタルモノナリ瓦斯燈ノ如キハ僅ニ一二地方ニ之アルノミ故ニ之ヲ十二費目中ニ掲載セスシテ止ムヲ得ス漸ク特別法ヲ

設ケテ之ヲ維持スト雖モ更ニ其不可ナルヲ以テ從來ノ習慣ニ基キ今本府ノミ之ヲ地方稅目ニ加ヘントスルナリ蓋シ之ヲ其議決ニ委スルモ敢テ強ルニ非ラサルナリ本按ハ決シテ不可ナシトス

○三十七番楠本正隆 本按ヲ可トス夫レ瓦斯燈費ハ他ヨリ支出ノ途ナキカ故ニ之ヲ地方稅費目ニ加ヘントス反對論者ハ山ノ手ニ迄其費用ヲ課スルハ不公平ナリト云ト雖モ原來地方稅ノ支出ハ一般公平ニ爲ス能ハサルハ天下ノ情勢ナリ那ノ橋梁ノ如キハ河流アルノ地ニ於テ特ニ要用ナルモ其之ヲ要トセサル山ノ手ノ者ト雖モ其費ヲ課ス其他斯ノ如キ類例ハ頗ル多シ是止ムヲ得サルモノニシテ則チ瓦斯燈費ノ如キモ之ヲ山ノ手ノ住者ニ課ス可ラサル理ナキニアラス然レハ區内ノ協議ニ委センカ必スヤ辨スル能ハス已ニ辨スル能ハ

